

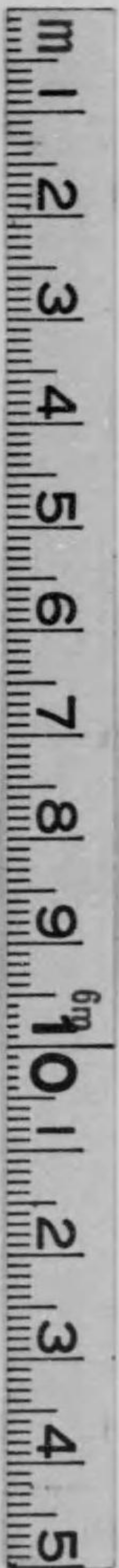
# 報 館

號 四 第

## 目 次

- 一、圖書館と學校とは國民教育機關の兩翼にして何れをも  
偏重すべからざる所以を論じ、その普及發展策に及ぶ……  
長崎圖書館長 永山時英……一
- 二、長崎圖書館閱覽狀況……二
- 三、閱覽人員表……三
- 四、閱覽圖書冊數表……三
- 五、新著和漢圖書目錄……一、四
- 六、寄贈圖書及新聞……五

長崎縣立長崎圖書館



# 始



本館規則抄

一、回覧文庫

(一) 本館内ナル郡、市、町、村長、公私立學校、公私立圖書館、青年會、處女會、其他本館ニ於テ適當ト認ムル官衙又ハ諸團體カラ請求ガアレバ早速廻付致シマス。但シ片道ノ運賃ハ請求者ノ負担デス。

(二) 請求者ハ左式願書ヲ要シマス、但葉書ヲ結構デス。

回覧文庫廻付願

貴館規則ヲ遵守可致ニ付左記種類ノ圖書御廻付相成度候也

年月日 何々長(又ハ何々代表者) 氏名印

本館長宛

記

- 一、(1) 私立學校、私立圖書館、青年會又ハ處女會ヨリ請求ノ場合ハ第一回ニ限り市町村長又ハ公立學校長ノ證明ヲ要シマス。
- (2) 回覧文庫ノ留置期限ハ二ヶ月乃至五ヶ月アスカラ豫メ御決定ノ上願書ニ記入ヲ要シマス。

二、圖書携出

一、本館内ニ住居シ左記資格アル方ハ本館ノ圖書ヲ借出シテ自宅テ

閱覽スルコトガ出来マス

- (イ) 本館優待券所有者。
  - (ロ) 官公吏及官公立學校職員。
  - (ハ) 國縣郡市會議員。
  - (ニ) 銀行會社等ノ要職ニアルモノ。
  - (ヒ) 滿十七歳以上ニシテ以上各項ノ一ノ資格アル保證人ヲ設クルモノ。
  - (ヘ) 銀行預金又ハ郵便貯金ノ通帳ヲ擔保トシテ提出スルモノ。
- 二、本館圖書ノ館外借出ヲ希望セラルル方ハ左記書式ノ願書ヲ出シテ携出券ヲ貰フテ置カル、必要ガアリマス。携出券ハ館外貸出特許狀デアリマス。コレサヘ取ツテ置カルレバ本館ノ開館中ナレバ何時デモ希望ノ書ヲ借出スルコトガ出来マス。

圖書携出券付與願 (三錢切手封入ノコト)。

貴館規則ヲ遵守可致ニ付圖書携出券御付與相成度候也

昭和 年 月 日

住所職業 氏名印

生年月日

- 三、館外携出ノ圖書冊數制限ハ長崎市内ハ一回ニ和裝ハ一種二冊、洋裝ハ一冊、和洋合セテ二冊トシ、地方ハ和裝一種三冊、洋裝一種二冊和洋合計三冊デアリマス。但特別ノ研究ニ必要アル場合ハ此限リデアリマセ。
- 四、携出期間ハ長崎市内ハ十日、地方ハ二十日デアリマス。但シ手續サヘスレバ引續借用ガ出来マス。
- 五、携出券與願ニ書載ノ資格其他ニ異動ガアツタ場合ニハ直ニ届出ヲ要シマス。



圖書館と學校とは國民教育機關の兩翼にして何れをも偏重すべからざる所以を論じ、その普及發展策に及ぶ

長崎圖書館長 永山時英

(一) 國民教育制度は時勢の進運に伴はざるべからず

教へざるの民を以て國家の獨立を永遠に確保し、且つその隆昌を期せんことは木に據りて魚を求むるの類である。去りながら國家に最も必要なる國民の教育は時勢の如何と政體の變遷とによりて絶えず變化する。従つて國民教育の具体的方法も亦時勢に伴はざるべからざる必要がある。

哲人政治時代に於て國家が國民に最も多く要望する所の教育は勤儉從順の美德である。民をして由らしむべし知らしむべからずとは此時代に於ける爲政者の秘訣であつた、されば此時代に於ける理想的の國民教育は爲政者の徳化であつて、義務教育を國民一般に強要し智育の徹底を期するが如きは寧ろ不賢明なる政策であつたかも知れぬ。

去りながら代議政體の時代となつては國民一般が豊富なる識見と穩健なる批判力とを有することが最も必要である。何となれば此時代に於ては國政を左右するものは國民の輿論であるから、若し國民に上述の如き素養がなければ國政は常に野心家の煽動や魔の手先の詭辯によりて動かされ、哲人の卓見も用ゐられず愛國家の努力も施すに策なきに至るの處があるからである。是れ此時代に於ては義務教育を國民一般に強要するの必要ある所以である。

併しながら義務教育のみで國民教育の目的が達せらるゝものと思ふ者があつたならば、それは大なる誤謬である。何となれば

278-98

學校教育は其の最も成功した場合に於ても兒童をして智識の所在と之を獲得する方法とを知らしむるに過ぎずして、知識そのもの、獲得は之を卒業後の自修自學に俟つの外はないからである。

夫故に學校教育の効果を收め、國民教育の目的を達成せんとするには國民一般に自修自學の便を與へ、且つ大に之を奨励せねばならぬ。然らざれば義務教育の効果を收め得る範圍は自ら向上の精神に富める篤志者と上級學校に進入することを得る家庭の兒童とに限らるゝものと見ねばならぬ。毎年の壯丁検査に際し不就學者と殆ど異らざる義務教育修了者が多く發見せらるゝのは國民唯一の自修自學機關たる圖書館が甚だ貧弱である爲めではあるまいか。今回の普選に際し候補者の氏名をだに自書するに堪へざるものが多かつたといふことも多分此事實を物語るものであらう。

我國の小學校教育はその年限こそ短いが（世界の他の一等國は皆八年乃至十二年の義務教育を課して居る）その普及せることに於ても、將たその整備せる點に於ても世界に誇るべきものであると聞いて居る。然るに卒業後の自修自學が奨励せられぬが爲めに右の如く不徹底なるものであることは、實に効を一費に缺ぐものと謂はねばならぬ。

果して然らば何故に今日まで此の不徹底なる國民教育制度に對して批難の聲が高くなかつたであらうか。又何故に國政の運用上大なる支障がなかつたであらうか。余を以て之を見るに之は有限選舉制が採用せられて居たからである。此時代に於ては選舉權を有するものは、自然の結果として大抵資産ある家に生れて上級學校の教育を受けたものか、或は自ら向上の精神を有し卒業後も自修自學したものに限られた、そして無資格の民衆は哲人政治時代の民衆と敢て異なる所あるを要しなかつた。

併しながら普選時代に於ては國政を動かすものは國民全体の輿論である。此時に當り穩健なる批判力を有せざる愚昧なる者が國民の大多數を占むるやうでは野心家の煽動や魔の手先の陰謀によりて天下の輿論は自由に左右せられ、議會は自己の私利の外には

何物も無き煽動政治家や魔の手先たる賣國奴が多數を制することになる。事ここに至りては國家は遂に亡滅の外はない。

明治三十二年にブラッセルで開かれた猶太人の秘密會議の席上でのフリーメイソンの會頭の訓示演説中に大略次の如き意味の一節がある。

教育あり識見ある愛國家の卓見が重ぜらるゝ國は之を亡ぼすことは出来ぬ。夫故に我等選民の使命たる世界統一の大業を達成せんとするには先づ盲昧なる民衆をして國政を議するの習慣を養はしめ、その勢力を助長して教育あり經驗ある愛國家の卓見を壓倒せしめねばならぬ。かゝる機運を作らんとするには必ず先づ普選を実施せしめねばならぬ。普選が既に實施せられ愚昧なる民衆が熱心に國政を議するやうになれば、我等の間諜をその間に放ちてその意見を左右することは眞に易々たることである。云々

專制政治時代の露國は世界第一の陸軍國でその富強は世界の脅威であつた。併しながら該國の爲政者は時勢の進退に盲目で、何時までも現狀を維持し得るものと考へた。されば軍隊と警察の力を以て國民に従順と勤儉とを強要することは忘れなかつたけれど、國民に教育を施して時勢の變遷に備ふるの策に出づることを知らなかつたので、猶太人等が右に述べたプログラムを此國に實行し、普選の實施を見るや、革命に次ぐに革命を以てし、遂に今日の慘狀を見るに至つた。（第一革命の首腦者四百十五名中猶太系のもが三百五十人の多數を占めたといふ事實から見ても猶太人のプログラムの實施であつたことは明である）

今や我國に於ても普選が實施さるゝことになつた。これは時勢に伴ふ當然の道程である。去りながら一念國民教育の現狀に及ぶ時、衷心慄然たらざるを得ざるものがある。是れ余が國民教育制度の革新を絶叫する所以である。

## （二） 學校と圖書館との協力は國民教育上最も必要なり

學校教育は卒業後の自修自學を俟つて初めてその効果を收め得べきものであるから、國民教育の徹底を期せんとするには、國民

に自修自學を獎勵し、事實上義務教育を國民各自の一生に延長せねばならぬ。そしてこの目的を達成せんとするには圖書館を普及發達せしめ圖書館と學校とが協力して國民教育の任に當るの外は無い。

民衆政治の國家として光輝ある歴史を有する北米合衆國に於ては、國民教育は教會を底邊とし、學校と圖書館とを他の二邊とする。二等邊三角形を畫くにあらざればその目的を達すべきものでないことが一般に認められて居る。されば學校と圖書館とは互に協力して國民の自修自學を獎勵し、圖書館の普及發達は世界第一と稱せらるゝ。夫故に國民の讀書趣味は非常に旺盛で、人口の半數以上が圖書館の館外携出券を有し盛に之を利用して居る市町村さへ決して珍らしく無い。右の如き有様であるから米國の義務教育は八年であるが、實は國民各自の一生に延長されて居るものと見るべきである。義務教育は僅に六年で、而かも困難なる文字教育を施さねばならぬにも拘はらず、教育者の主力は卒業生の一割にも達せざる上級學校進入者の爲めに用ゐられ、卒業後の自修自學に就いては餘り多くの考慮が拂れず、且つ自修自學の唯一機關たる圖書館の設備は甚貧弱で、その學校と對立すべき重要な國民教育機關であるといふことさへ一般に認められて居ない我國の現状と對照し、且つ一念我政界の現状に及ぶ時、吾人は慄然として教育制度革新の急を叫ばざるを得ないのである。

尙ほ吾々の大に學ばねばならぬことは北米合衆國の教育の大方針が世界大戰の經驗によりて一變せられ、學校と圖書館との協力によりて羨望すべき麗しい氣風が漸次勃興しつゝあることである。最近米國シンシナチ大學教授から成る日本觀光團に加はつて歸朝した米國に於ける唯一の日本人正教授たるシンシナチ大學教授醫學博士田代四郎助氏は米國に於ける教育方針の革新とその成績とに就いて大略左の如き談話を試みられた。

米國では從來能率本位の教育が行はれつゝあつたが、世界大戰の經驗によりて能率本位の教育では國運の隆昌を永遠に期することの不可能なることが一般に認められ、今や人格本位の教育が盛に行はるゝやうになつた。各學校がこの方針で教育に従事するは勿論各公共圖書館も亦この方針で圖書を嚴選するので、近來著しくその實蹟が現はれ、學校に於ける師弟の關係なども實に麗しいもので、四五十年前の我國のそれに髣髴たるものがある。例はシンシナチ大學で教授が學生に出逢ふ場合に若し學生が眞でも手にして居れば、彼等は必ず先づ之を棄て、敬禮するのみならず、その影の見ゆるまで之を目送るといふ有様である。米人は何處までも個人の自由を重んずるが全時にまた責任を重んずる。彼等は單なる個人としては全く自由であるけれども學生といふ位地にある以上はその位地に對する責任があるといふことを知つて居る。是れ彼等が師に對して恭謙なる所以であるが、この心掛はあらゆる機會に表現するので、米國では階級的思想が近來大に盛になつて來た。又近來日人排斥の聲が盛であるので、米國に於ては到る所で日本人は侮蔑せられて居るものと考へらるゝ方もあらうが、事實は決して左様ではない。殊に日本魂のある日本人は大に尊敬せらるゝ。現にシンシナチ大學では猶太人は勿論歐洲人中でも或一二國の人民には入學を許さぬけれども、我日本人の如きは決して差別的待遇を受けぬのである。そして同大學に於ては米國人若くは歐洲人にして教授の位地を熱望して居る助教授講師乃至助手が澤山あるのに矮身黄色の余(田代氏自身)を特に拔擢して正教授の位地を授けたといふ事實が雄辯に彼等が日本人を侮蔑して居ないといふことを物語るものではあるまいか。併し憂慮に堪へないのは日本人第二世即ち米國で生れた日本人の現状である。彼等の内には大學などを卒業したものは澤山ある。小材のきいたものも決して少くない。併し彼等は日本魂の何物たるかを解せぬのである。彼等は米國文明の表面を眞似てハイカラ紳士たるの外何等の尊敬すべき人格を持つて居ない。それ故に彼等は到る所で侮蔑せらるゝ。されば學校では成績の優秀なりしものでも卒業後は大抵自分よりも成績の劣等なりしものゝ下に立つて頭角を現はすものは甚尠い。出來得べくば日本内地から人格ある教育者を送つて之を熏陶したいものである。

然らざればその將來は非常に憂慮すべきものである。云々。

六

かく論じ來れば或は説を爲して云ふものがあらう。歐米人は讀書趣味が旺盛であるから彼の國々では圖書館教育も大に効果があるであらうが、我日本人の如く讀書慾がなくては如何に圖書館を普及發展せしめても、その効果を十分に收むることは至難であらうと。それも一部の眞理を含で居ることは事實である。併しそれは歐米の先進國に於て如何に多くの努力が讀書趣味の養成に用ゐられつゝあるかを知らぬが爲めに起る所の誤謬である。

十七、八世紀の頃歐洲人の認めた著書中には日本人に知識慾や讀書趣味の旺盛なることが繰返されてある。されば其の頃には日本人の方が却つて讀書趣味が多かつたかとも思はるゝ。然るに今日の現象を見るにつたのは、我國に於ては讀書趣味の獎勵に何等の注意が拂はれぬ間に、彼の國々に於ては積極的獎勵法が勵行せられたからである。

米國に於ては小學校教員の主たる任務は各教科書に精通せしむるにあらずして、讀書力の養成、讀書趣味の向上及び良書の紹介にありとし、その目的とする所は卒業後公共圖書館を利用し一生涯を通じて自學自修せしむるに在りとしてある。

されば學科の教授に當りては専ら自學主義をとり、附屬圖書館を利用して盛に參考書を利用せしむると全時に、毎週一時間宛は特に圖書館科を課し、圖書及圖書館の利用法を授け、且つ良書の紹介に努めて居る。

之と全時に各圖書館に於てはあらゆる廣告の方法を利用して圖書館を社會に紹介し、來觀者に對しては整備せる圖書目錄を備ふる外に閱覽者指導の司書を置いて閱覽者をして迅速にその求むる所の圖書を手にすることを得せしむるのみならず、之を紹介するに良書を以てせしむる。そして兒童に對しては特に兒童室を設け、專任の指導者を置いて兒童をして圖書の選擇を誤らざらしめんことを期するのみならず、時には兒童の爲めに適當なる圖書を読み又はお伽話等を爲し、國民をして幼年時代より圖書館に親しみ

且つ讀書趣味を向上せしめんことを努めて居る。

圖書館には又學校擔任の司書が居て、日々擔當の學校に出入し、或は新著の圖書を紹介し、或は圖書館利用法その他を講ずることになつて居る。

圖書館は右の如く學校と密接なる聯絡を保てるのみならず、社會のあらゆる團體とも聯絡を保ち圖書館の利用を獎勵して居る。

例は農會と聯絡を保ち巡迴教師をして先づ求むる所の圖書の購入を圖書館に求めしめ、次で之を各農民に告げしめ、各自をして之を利用せしむるの類である。

圖書館は又各圖書館間に聯絡を保ち圖書の利用を圖つてゐる。例ば州立なり郡立なり市立なりの圖書館の藏書目錄は之を各圖書館に備へ置き必要ある時は、相互間に之を利用するの類である。

米國の學校と圖書館とは右の如く協力して國民一般の讀書趣味の養成に努力し、圖書館には嚴選せられた良書が豊富に備へてあつて民衆の利用を行つてゐる。之を我國の現状と對照せば彼の國民に讀書趣味が多く我が國民にそれが乏しいのは寧ろ當然過ぎる程當然なことではあるまいか。

かく考へ來たれば我が現代の國民に讀書慾の旺盛ならざるは決して我民族の先天的性格に基因するものではなく努力の足らざる結果である。最近學校に於ても自學主義の教育法が段々盛になりつゝある場合であるから、此の際圖書館を普及發展せしめ、學校と圖書館とが協力して國民の自修自學を獎勵するに於ては、國民教育を各自の一生涯に延長し、學校教育の効果を充分に收め得ることも決して遠き未來ではあるまい。

併し吾々の今日大に努力せねばならぬ所は讀書趣味の向上と云ふことであつて、必しも讀書慾の増加と云ふことではない。今日

七

と雖も我が國の青年の讀書慾は決して貧弱ではない。それは新刊圖書の多い点に於ては我日本は世界列國中第二番目に位して居るといふことでも之を證することが出来る。獨逸はその點に於ては第一位にあるが英國でも米國でも皆遙に我國に及ばぬのである。我が若し我國に立派な研究者が多い結果であるならば實に喜ばしい現象であるが、實は我が社會に悪書や無價値の圖書を排斥する能力がない結果であるから慨嘆に堪へない次第である。

甚だしく有害なる圖書は國家が發賣を許さないことは勿論である。併し今日世間に流布せる圖書の中には尙ほ全然無價値なものもあり、有害無益な圖書もある。中には國家を毒する目的を以て殊更らに魔の手によりて著はされたる圖書さへある。一般から良書と認められて盛にもてはやさるゝ圖書の内にも大なる害毒を社會に流すものもある。例ば極端に無慈悲なる親や、極端に無能力なる父を畫いて、妻子が之に反抗するのが却つて讀者の同情を買ふに足るやうな小説などが澤山あるが、是等は知らず覺らずの間に吾が躰はしき家族制度を破壊するものである。

有害無益なる圖書は大抵誇張せる廣告を新聞雜誌等に掲げて大に民衆の讀書慾を唆るを常とする。圖書館より良書を得るの便を有せざる人々は自然此等の廣告に欺かれ、高い金を拂つて之を耽讀することになる。是れ今日悪書や無價値の書が天下に跋扈する所以である。昨年十一月渡來した米國太平洋大學の旅行團が船中で發行した十一月四日の日刊新聞に次の如き記事があつた。

日本人は讀書に熱心で且つ十分に讀書の時間を持つてゐる。併しその選擇は粗漏極つたものである。一寸した近刊紹介の廣告文によりて西洋の新刊書が輸入されるは、いきなり誇張した批評文が公にせられ、また、くひまにその日本譯が出版せらるゝ。だが如何なる文章運動もその國民性を再生せむしる程に根強く生長することは無い。唯何が新奇な議論か珍らしい小説などさへあれば熱心に耽讀せらるゝ。この日本人の好奇心は高じて日本には禁斷の實であるべき勞働運動までが實つてゐる。云々

右の批評は確に我國の現状を穿つたものである。そしてこれは嚴選せられた良書を豊富に所蔵する圖書館が普及してゐない結果である。何となれば何等の經費を要せずして求むる所の良書が容易に手に入る場合に故らに高い金を拂つて無價値の低級書や有害無益な圖書を購入する馬鹿者はあり得ないからである。

### (三) 如何にせば圖書館を普及發展せしむべきか

圖書館は有限選舉時代に於ても國民教育の重要機關ではあつたけれども必ずしも學校と同様なる普及を要しなかつたが、普選時代に於ては學校と並立して國民教育の兩翼たらざるべからざるものであることは以上述べ來りたる通りである。されば既に普選を實施する以上國家は宜しく學校と等しくその普及を各自治機關に強要し且つ大いに之を助成してその發展を期せざるべからざることと思ふ。去りながら現代式圖書館とは如何なるものにしてその國民教育上の價値如何と云ふことを十分に理解せる人の少き今日に於て、俄にその目的を達成せんことは甚だ困難なこと、謂はねばならぬ。

されば圖書館の普及發展策の第一歩としては經費の餘り多くかゝらない方法で國民一般をして圖書館の國民教育上必要な機關なることを自覺せしむるの方法を講ぜねばならぬ。而して之が最良の方法は國法を以て各府縣に少くとも一館以上の模範的中央圖書館を建設せしめ、嚴選せられた良書を豊富に備付け置きて、地方圖書館及び青年團等とその請求に應じて簡易な方法で之を配給せしめ、中央圖書館長若しくは同館司書をして絶えず地方を巡廻して指導の任に當らしむると同時に、小學校に於ては出來得る限り自學主義の教育を施し、附屬書館を利用して兒童をして圖書の利用法に習熟せしめ且つ努めて良書を之に紹介することである。そして模範的中央圖書館は府縣の大小によりして自然その規模を異にせねばならぬけれども、當分の間は普通一中等學校の經費と同額即ち年額五六萬圓位の豫算のもので先づ十分であらうと思ふ。

中央圖書館に豊富なる蔵書を備付くることになれば地方圖書館の經費の大部分は之を人件費に投じ、中央圖書館の蔵書を利用して大に之を活用することにしたものである。圖書購入費のみあつて人件費なき圖書館の如きは却つて圖書館の發達を阻害するものである。之が爲めには適當なる圖書館員を多く要するのであるから各中央圖書館では短期の講習を行ふと同時に國家は圖書館學校を建設して重なる圖書館の事務に當る人材を養成するの必要がある。米國の圖書館が有効に利用さるゝやうになつたのは圖書館學校建設後であつたといふことは大に参考とすべきことである。

我國の初等乃至中等の各學校は高等教育機關の豫備校たるの觀があつて、卒業後直に社會に出づる者は十分の九以上を占むるに拘はらず、此等の人々は皆少數なる上級學校進人者の犠牲となり、その一生に何等必要な學科、極言すれば卒業後幾ばくもなくして忘却するやうな學科を勉強する爲めに多大の時間と腦力とを空費しつゝある有様であることは何人も首肯する所であるが、之もどうか米國などの如く選擇科目を多くして生徒各自をしてその一生に必要なる學科に多くの時間と努力とを費さしむるやうな制度に改め授業のない時間は附屬圖書館で必要な研究をなさしむることにしたものである。

右の如き方法によりて圖書館と學校とが毛を携へて國民教育の重任に當るに於ては圖書館の必要は直に國民一般の認むる所となり、その普及發展は法律の威力を用ひずとも必ず行はるゝことと思ふ。かくの如くにして初めて國民一般に穩健な批判力と世運の進歩に遅れざる智力とが養はれ、國家を永久に泰山の安きに置くことが出来るものと信ずる。

### 長崎縣立長崎圖書館閱覽狀況

自大正十五年十一月  
至昭和二年六月 閱覽人員表

(取扱別)

種別	十一月		十二月		一月		二月		三月		四月		五月		六月	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
特別	二九九		一八三		二六九		四六八		五〇七		四七		二四二		四三九	
普通	六、八九一		三、四六一		四、八一八		七、五四五		八、四二三		四、三三二		七、七八八		九、〇二七	
携出	八、〇二四		三、一八五		六、六六九		六、四六六		七、八二四		七、二〇四		七、一四二		七、一六四	
新開	九、二四〇		四、七五四		六、二九六		一〇、四一七		一一、六〇九		六、七〇三		一〇、四一六		一一、三八〇	
兒童	四二二		一八一		六二〇		九五七		一三、六三		八九六		一、四三二		六四四	
計	二六、三三四		一一、三二二		二〇、〇二〇		二七、二七〇		三一、〇四八		一九、九四九		二八、一七六		三〇、七八二	
一日平均閱覽人員	九〇八、〇		八七九、五		八〇〇、八		一、一三六、二		一、〇三四、八		七二二、三		九三九、二		一、〇六一、四	

自大正十五年十一月至昭和二年六月 閱覽人員表 (職業別)

種別	自大正十五年十一月至昭和二年六月					
	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
學生	六,七六八	三,一七	四,三三九	六,九四四	七,二五五	三,六二三
商工業者	二八一	二四三	六二八	六七五	九一三	七二八
官公吏軍人	八三七	四三九	一,〇五六	九九七	八七〇	五六三
銀行會社員	一,一〇七	五二七	一,〇九九	一,一一〇	一,四六五	一,四五五
教育家宗教家	九〇〇	四二三	九七九	九八一	一,〇六〇	一,〇九四
記者醫師辯護士	三二九	二五五	四九五	四四五	六一九	六三六
職工	三六〇	一四四	三三六	二七四	二八五	二〇〇
其他	一五,二八七	六,九六二	一〇,三五五	一四,七五九	一六,九一五	一〇,五二八
兒童	四六五	二〇二	七三三	一,〇八五	一,六六六	一,一二二
計	二六,三三四	一二,三二二	二〇,〇二〇	二七,二七〇	三一,〇四八	一九,九四九
一日平均閱覽人員	九〇八〇	八七九,五	八〇〇,八	一,一三六,二	一,〇三四,八	七二二,三

自大正十五年十一月至昭和二年六月 閱覽圖書冊數表

門別	自大正十五年十一月至昭和二年六月					
	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
一	二,八七一	一,〇七七	二,〇五〇	二,三二五	二,三〇二	一,七三九
二	九,六一三	三,六五四	六,一六四	八,二五三	一一,三九三	九,〇六九
三	四,五九〇	二,四二二	四,三五〇	三,八一六	四,三五九	三,三〇九
四	二,五三七	九七〇	一,八一七	二,〇六四	二,三四五	二,一八六
五	二,三九四	九七八	一,八四七	一,九八六	二,〇二四	一,三二三
六	二,一〇二	九一二	一,六五一	一,七九一	二,〇四一	一,九八六
七	一,三四八	九七一	一,六四五	一,五〇八	一,八七四	一,五六五
八	一,一三一	三九三	七九六	八四五	八六八	七一〇
九	一,一八〇七	五,七二四	九,五〇一	一二,三二二	一五,八九八	一〇,六〇六
計	三八,三九三	一七,一〇二	二九,八二一	三四,九一〇	四三,一〇四	三二,四九三
一日平均閱覽人員	一,三二四,〇	一,二二一,五	一,一九二,八	一,四五四,六	一,四三六,八	一,一六〇,三



新着和漢圖書目錄

自大正十五年十一月  
至昭和二年六月

一	新着和漢圖書目錄	一
二	新着和漢圖書目錄	二
三	新着和漢圖書目錄	三
四	新着和漢圖書目錄	四
五	新着和漢圖書目錄	五
六	新着和漢圖書目錄	六
七	新着和漢圖書目錄	七
八	新着和漢圖書目錄	八
九	新着和漢圖書目錄	九
十	新着和漢圖書目錄	十
十一	新着和漢圖書目錄	十一
十二	新着和漢圖書目錄	十二
十三	新着和漢圖書目錄	十三
十四	新着和漢圖書目錄	十四
十五	新着和漢圖書目錄	十五
十六	新着和漢圖書目錄	十六
十七	新着和漢圖書目錄	十七
十八	新着和漢圖書目錄	十八
十九	新着和漢圖書目錄	十九
二十	新着和漢圖書目錄	二十

目次

第一門 宗教、哲學、教育……………一  
 第二門 文學、語學……………六  
 第三門 歴史、傳記、地誌、紀行……………一五  
 第四門 政治、法律、經濟及財政、社會統計……………二〇  
 第五門 數學、理學、醫學……………二四  
 第六門 工學、工藝、兵事……………二七  
 第七門 産業、商業、交通及通信……………二八  
 第八門 美術、家事、諸藝及遊技、武術……………三〇  
 第九門 事彙、叢書、隨筆、書目、雜書、新聞、雜誌……………三二

第二門 宗教、哲學、教育

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
觀音信仰と人の一生	小瀧 淳	大正十五年十月	一	二〇	二〇一
明治神佛分離史料(中卷)	村上 嘉	大正十五年十月	一	二〇	九七
維新神佛分離史料(外二卷)	青木 利七	大正十五年十月	一	二〇	一〇〇
佛耶宗教哲學	相田隆太郎	大正十五年九月	一	二〇	九九
世界宗教十六講	寛克彦	大正十五年四月	一	二二	七四
神ながらの道	今井眞樹	大正十五年九月	一	二二	七三
諏訪史料叢書 卷四	三角貫思	同上	一	二三	四九
悪人成佛	同上	同上	一	二三	二六九
國譯禪宗叢書 第二輯 第三卷	同上	同上	一	二三	二六九
親鸞の觀たる人の一生	下村 諦信	大正十五年六月	一	二三	四六六
釋迦一代記	江部 鳴村	大正十四年十月	一	二三	四六五
死の宣告を受けて	安波 勳	大正十五年七月	一	二三	四六四
傳教大師全集第一、二、三	観山 學院	大正十五年六月	三	二三	四六七
佛教讀本	粉山 平三	大正十五年九月	一	二三	四六八

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
吉利支丹文庫第一輯 吉利支丹物語	比屋根 安定	大正十五年七月	一	二三	二一七
パウロ研究	野々村 戒三	大正十四年十月	一	二三	二一六
生ける宇宙	長澤 三郎	大正十五年二月	一	二三	二六四
ヱデルバハの根本問題	松原 寛	大正十五年七月	一	二三	二五九
カント著作集 一、三、六	桑木 嚴	大正十五年十月	二	二三	二七〇
信仰の論理	外二名 共譯	大正十五年四月	一	二三	二六一
中世に於ける精神生活	三谷 隆正	大正十五年四月	一	二三	二六二
社會思想史	平泉 澄同	同上	一	二三	二六三
小さい美學	フオルンダ 高橋 正男	大正十五年五月	一	二三	二六八
哲學入門	佐藤 直丸	大正十五年九月	一	二三	二六六
ドイツの哲學と文化 教育學	ヘルグソン 西宮 藤朝	大正十五年四月	一	二三	二六八
日本主義	海後 宗俊	大正十五年十月	一	二三	二六九
ドイツ美學大系 第一卷	井 茂三	大正十五年四月	一	二三	二六五
ベルグソンの哲學と現代教育	稻垣 末松	大正十五年七月	一	二三	二六六
らすきん氏讀書論	鳥 爲男	同上	一	二三	二六〇
	小林 一	明治四二年七月	一	二三	二六一

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
西洋倫理學史 (古代)	吉田靜致	大正十五年九月	一三三	九三	
小島國民道德	小野正康	大正十五年九月	一三三	九三	
訂東洋倫理綱要	嶋川龍夫	同	一三三	九五	
道德思想の發達	服部宇之吉	同	一三三	九四	
倫理學概論	伊藤千真三	大正十四年八月	一三三	九六	
理倫學書解說	吉田熊次	大正十五年十月	一三三	九七	
倫理學概論	藤井建次郎	明治三十七年十月	一三三	九二	
愛皇論	萩原	大正十五年四月	一三三	九一	
勅語謹講	土屋元作	昭和二年三月	一三三	一六六	
朝見の勅語故事熟語	金光教本部	昭和二年三月	一三三	一六九	
武士道叢書 上下	辻村二休	同	一三三	一六七	
も一つの鏡	井上哲次郎	明治四十二年	一三三	一六二	
讀んで面白し 高僧逸話集	太田正孝	大正十五年六月	一三三	一六八	
修養になる	土屋春堂	大正十五年四月	一三三	一三三	
青年と語る	池田哲次郎	同	一三三	一三四	
青年美談	熊田萃城	大正十四年三月	一三四	一三五	

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
積極修養と消極修養	前田多門	大正十五年七月	一三四	三三七	
大正德行録	池田敬八	大正十五年五月	一三四	三三三	
婦人の新教養	徳富猪一郎	大正十五年八月	一三四	三三五	
烈婦の修養	岩佐白鷗	大正十五年七月	一三四	三三六	
心理學書解説	塚原政次	明治三十四年四月	一三五	九八	
實驗心理學序説 (前編)	増田惟茂	大正十五年九月	一三五	九九	
智的素質検査法	榊崎淺太郎	大正十五年六月	一三五	九七	
現代孟子 (支那哲學叢書)	高森良人	大正十五年三月	一三六	二五	
孔子から孟子へ (東洋哲學文庫)	高須芳次郎	大正十五年四月	一三六	二六	
現代支那哲學概論	吉田義成	同	一三六	二五	
現代荀子	宇野哲人	大正十五年四月	一三六	二五	
現代周易	加藤常賢	大正十五年二月	一三六	二五	
現代傳習録	高森良人	大正十五年七月	一三六	二五	
陸象山の哲學	小野機太郎	大正十四年二月	一三六	二五	
	三島	復	大正十五年十月	一三六	二五

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
現代論語	小野機太郎	大正十五年六月	一三六	二五	
現代老子列子	野村岳陽	大正十五年一月	一三六	二五	
日本名家書註釋全書	關儀一郎	大正十五年十月	一三七	一六	
孟子全解	島田鈞一	同	一三七	二九	
精要韓非子詳解	吉波彦作	大正十五年八月	一三六	七五	
奇門遁甲秘笈大全	明劉伯温	同	一三六	七三	
孫子新註	大谷光端	大正十五年四月	一三六	七四	
大六壬大全	井川觀象	大正十五年九月	一三六	七五	
姓名前名のつけ方	井川觀象	大正十五年九月	一三六	七五	
六大運命觀と人の一生	東洋易學研究會	大正十五年十月	一三六	七七	
アルス婦人講座 第十卷	北原鐵雄	大正十五年九月	一三〇	三九一	
同 第十一卷	北原鐵雄	大正十五年九月	一三〇	三九一	
同 第十二卷	北原鐵雄	大正十五年九月	一三〇	三九一	
同 第七、八、九卷	北原鐵雄	大正十五年六月	一三〇	三九一	
公民教育講座	同	同	一三〇	三九七	
大日本百科辭書 教育大辭書	同	同	一三〇	三九七	
教育基調を正せ	三橋節	大正十五年二月	一三〇	三八八	

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
現代教育哲學の根本問題	長田	新大正十五年六月	一三〇	三九二	
教育學書解説	中谷延治	明治三十四年	一三〇	三九四	
現代教育思潮批判	佐藤熊次郎	大正十五年十月	一三〇	三九九	
教育及教育學の背景	遠藤隆吉	大正十五年八月	一三〇	三九八	
國民體育の方法として運動技の性質價值及其弊害	田崎仁義	昭和二年一月	一三〇	三九七	
兒童の生活形式	守内喜一郎	大正十五年六月	一三〇	二九六	
大正十五年全國官學校及體験學校ニ關スル調査	入澤宗壽	大正十五年四月	一三〇	三九三	
大正十臺灣總督府學事三年度 第二十三号	同	同	一三〇	三九三	
大正十年長崎縣教育要覽	長崎縣 內務部	大正十五年八月	一三〇	四五	
日本帝國文部省第五年報	文部省官房文書課	大正十五年七月	一三〇	三	
アルス報婦人講座 第六卷	北原鐵雄	同	一三〇	三九一	
文化教育學の新研究	乙竹岩造	大正十五年四月	一三〇	三八九	
文化教育概論	越川彌榮	大正十五年六月	一三〇	三九〇	
和魂漢才説	加藤仁平	大正十五年四月	一三〇	三九五	

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
學習各論 上卷	木下竹次	大正十五年三月	一一三		三五九
中心感激の國史教育	中野八十八	大正十五年四月	一一三		三五八
檢定唱歌集(尋常科用)	田村虎藏		一一三		三六〇
現代地理 帝國産業大資	廣島高等師範 學校附屬小學校	大正十五年十月	二二三		一三七
教育の主眼料 上下	關山金之助	大正十五年五月	三二三		三五七
國史の研究 下卷	垣内松三	大正十五年四月	一一三		三五六
國語讀方教授の理論と 讀本實際	垣内松三	大正十五年四月	一一三		三五五
國語史解説	増澤 淑同		一一三		三五五
國語讀本讀方教授の理 論と實際	垣内松三	大正十五年九月	一一三		三五六
國定教科書動物教材の 根本的研究(第五學年教材)	岡崎常太郎	大正十五年六月	一一三		三五六
國語讀方教授の理論と 實際 卷十	垣内松三	大正十五年九月	一一三		三五六
國史教育の改造	大久保 馨	大正十五年六月	一一三		三五七
算術教授に於ける原據 る事實問題の 原據	山本 孫一	大正十四年十月	一一三		三六一
小學修身書解説 卷二	古川 正登	大正十四年六月	一一三		三六三
兒童實驗と教授實驗 及其施設	河野 通匡	大正十五年八月	一一三		三六四
尋常修身書解説 尋常科 小學 第一學年	邊谷 義夫	大正十四年六月	一一三		三六三

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
兒童生活に即したる藝術表現	尾七郎	大正十三年六月	一一三		三六八
新理科教育	堂 東傳	大正十五年七月	一一三		三六九
趣味の國史教育集成	内外育史教科調 査會	大正十五年九月	一一三		三七〇
兒童就學獎勵概況	文部省普通學務 局	昭和二年四月	一一三		三七四
全國特殊教育狀況	文 部 省	昭和二年一月	一一三		三七五
體験に基づく學校經 營の眞髓	芳原 芳吉	大正十五年六月	一一三		三六二
地理教材研究 第八輯	地理教材研究會	大正十五年六月	一一三		三五五
圖案裝飾學習指導の 實際	大竹 拙三	大正十五年六月	一一三		三七一
第六學年用 理科書解説 尋常小學	外 階 源市		一一三		三七二
理想的學級經營	笠井 義夫	大正十五年八月	一一三		三六五
讀方教授の理 第四卷 論と實際 第九卷	垣内 松三	大正十五年四月	一一三		三五六
秋田鑛山專門學校一覽	秋田鑛山專門 校		一一三		一六三
大阪高等工業學校一覽	大阪高等工業學 校	昭和二年三月	一一三		三
大阪市立高等商業學校 一覽	大阪高等商業學 校	昭和二年一月	一一三		九
第五高等學校一覽第十 三臨時教員養成所一覽	第五高等學校	大正十五年九月	一一三		一六〇

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
第二高等學校一覽	第二高等學校		一一三		二〇
大正十四年現在全國 公立中學校二關スル調査	文部省普通學務 局	昭和二年一月	一一三		一五三
高等諸學校一覽	文部省專門學務 局	大正十五年八月	一一三		一六五
神宮皇學一覽	神宮皇學館		一一三		一〇九
水産講習所一覽	農林省水産講習 所	大正十五年三月	一一三		一三八
全國高等女學校實科高 等學校二關スル諸調査	文部省普通學務 局	大正十四年十月	一一三		一六六
大正十五年五月一日現在 全國公立中學校經費二 關スル調査	文部省普通學務 局		一一三		一四三
大正十五年四月二十一日 全國私立中學校經費二 關スル調査	文部省普通學務 局		一一三		一四二
第七高等學校造士館一覽	第七高等學校造 士館	大正十五年四月	一一三		四九
東京高等學校一覽第三	東京高等學校	大正十五年八月	一一三		一四四
東京高等工業學校一覽	東京高等工業學 校	大正十五年九月	一一三		六九
東京慈惠會醫科大學東 京慈惠醫科專門學校一 覽	東京慈惠醫科學 大學		一一三		一六二

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
東京外國語學校一覽	東京外國語學校	大正十五年七月	一一三		一五
東北帝國大學一覽	東北帝國大學	大正十五年七月	一一三		九二
鳥取高等農科大學一覽	鳥取高等農科學 校	大正十五年七月	一一三		一五九
東京商科大学一覽	東京商科大学	昭和二年三月	一一三		一五二
長崎三菱職工學校一覽	同上		一一三		一六一
長崎高等商業學校一覽	同上	大正十五年七月	一一三		二
奈良女子高等師範學校 第三臨時教員養成所一覽	奈良女子高等師 範學校		一一三		二二
姫路高等學校一覽	姫路高等學校		一一三		一四五
松本高等學校一覽	同上	大正十五年三月	一一三		一五〇
みあとしたひて	小原 達明	大正十五年七月	一一三		一六八
明治專門學校一覽	明治專門學校	大正十五年十月	一一三		一八
米澤高等工業學校一覽	米澤高等工業學 校	大正十五年七月	一一三		一六四
旅順工科大学一覽	同上		一一三		一六七
大阪府立圖書館 第二十 二年報	大阪府立圖書館		一一三		六
神戸市立圖書館概要	神戸市立圖書館	昭和二年三月	一一三		八七

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
通俗常識講話 人生編	金子二瑛	大正十五年六月	一	二三	八三
小學校補習學校、青年團中心の公民教育	田子一民	大正十四年五月	一	三三	八五
帝室博物館年報	帝室博物館	大正十五年八月	一	三三	八四
大正十五年東京博物館一覽	東京博物館	昭和二年四月	一	三三	七四
圖書館經營の理論及實際	今澤慈海	大正十五年九月	一	三三	八六

第二門 文學、語學

鷗外全集 第六卷	森林太郎	大正十五年七月	一	二〇	六
尾崎紅葉全集第二、三卷	尾崎紅葉	大正十四年四月	一	二〇	二八
落窪物語新釋	高村重徳	大正十五年七月	一	二二	二五五
學藝の國際協力	學藝會 委員會	昭和二年四月	一	二〇	一三六
鬼實集	高木蒼梧	大正十五年七月	一	二二	二七四
厨川白村全集 自第一至第六	厨川白村	大正十三年三月	一	二〇	一三四
藝術の無限感	中村 葬	大正十五年五月	一	二〇	一三三
近世日本啓蒙から觀樂へ	鈴木敏也	大正十五年九月	一	二二	二六〇
小説史の文藝	鈴木敏也	大正十五年九月	一	二二	二六〇
子規全集 第十三卷	正岡子規	同	一	二〇	一〇五

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
同 第十四卷	同	大正十五年八月	二	二〇	一〇五
世界童話大系 第十三卷	藤井 昭	大正十五年八月	二	二〇	一一
世界文學	山崎光子	大正十五年十月	一	二〇	一三六
世界童話大系 第十八卷	同上	刊行會	大正十五年六月	一	二〇
樗牛全集 第三卷	高山林次郎	大正十五年十月	一	二〇	一一
女姓日本	上野 園	大正十五年五月	一	二〇	一三七
土の人	長塚 節	大正十五年二月	一	二〇	一三八
東洋文藝十六講	高須芳次郎	大正十五年九月	一	二〇	一三三
東西文學評論	小泉 八 雲	大正十五年五月	一	二〇	一三〇
明治文學、美術人名辭書	松本龍之助	大正十五年四月	一	二〇	一三七
文學に志さす人に	武者小路實篤	大正十五年五月	一	二〇	一三九
文藝當座帳	菊池 寛	大正十五年六月	一	二〇	一三一
泡鳴全集 自第一卷至第十八卷	武藤元信	大正十四年七月	一	二〇	一三五
伊勢物語活譯	小林榮子	大正十五年六月	一	二二	二五三
浦島と羽衣	中田千敏	大正十五年七月	一	二二	二五八
概観日本文學史潮	鈴木敏也	大正十五年二月	一	二二	二四八

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
荷風文豪	永井荷風	大正十五年四月	一	二二	二五二
現代文の解釋	青木 正	大正十三年十月	一	二二	二二九
新編 國文學通史 下卷	坂井 衡平	大正十五年六月	一	二二	二四九
國文解釋法	塚本 哲三	大正十五年二月	一	二二	四三
新編 國文學通史 上卷	坂井 衡平	大正十五年四月	一	二二	二四九
食卓を圍みて	山口晴耕	昭和二年三月	一	二二	二五七
下谷叢書	永井 荷風	大正十五年三月	一	二二	二四四
旅と歌と	佐々木信綱	大正十五年八月	一	二二	二五四
校日本文學大系 第十三卷	國民圖書株式會社	大正十五年八月	一	二二	二四四
同 第十卷	同	大正十五年九月	一	二二	二四四
同 第八卷	同	大正十五年五月	二	二二	二四四
同 第十六卷	同	同	一	二二	二四四
新修 日本小説年表	朝倉 無聲	大正十五年九月	一	二二	二五九
かしのおもかげ	武藤元信	大正十四年七月	一	二二	二五六
詩集 悲しき生存	田中 浩一	大正十五年七月	一	二二	二七三

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
童謡詩 からのちの花	北原 白秋	大正十五年六月	一	二二	二六六
修道院 神と人	三木 羅 風	大正十五年七月	一	二二	二七五
金槐集私抄 第二十六編	齋藤 茂吉	大正十四年四月	一	二二	二六七
月の一郡	堀口 大學	同	一	二二	二七〇
趣味民謡をたづねて	松川 三 郎	大正十五年六月	一	二二	二六五
眞玉白玉	小野 利 教	大正十四年九月	一	二二	二六九
西條八十童謡全集	西條 八 十	大正十三年八月	一	二二	二七一
續國歌大觀索引	松下大三郎	同	一	二二	二七一
大日本歌書總覽 上卷	福井久藏	大正十五年八月	一	二二	二七六
勅題預選歌集並詠進法	松本 譽三	大正十五年十月	一	二二	二七八
トラピスト歌集	三木 羅 風	大正十五年六月	一	二二	二八一
伴林光平全集 上下	小野 利 教	大正八年一月	一	二二	二六八
新釋 百人一首夜話	吉井 勇	大正十五年七月	一	二二	二七九
萬葉集新考卷十九 上下	井上通泰	大正十五年九月	二	二二	二七五
問 卷二十上	同	昭和二年二月	一	二二	二七五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
まさを抒情詩集	加藤まさを	大正十五年	一	二三	二八〇
萬葉集問答	神田 豊穂	大正十三年八月	一	二三	二七二
詩集 龍女の眸	森 三千代	昭和二年三月	一	二三	二七七
あさみ會俳句選米	田中英二	大正十五年九月	一	二三	一三六
一茶又庫 <small>第五編(七番日)</small>	萩原井泉水	大正十五年七月	二	二三	一四二
其月俳句集 <small>俳人叢書 第二編</small>	小澤 武二	大正十五年六月	一	二三	一四〇
元祿名家句選 <small>第五卷</small>	神田 豊穂	大正十五年十月	一	二三	一三六
古今百人一句評釋	青木 移山	大正十五年九月	一	二三	一四八
芭蕉無 <small>三聖俳句選集</small>	木村 三樹	大正十五年一月	一	二三	一三九
村子奴 <small>三聖俳句選集</small>	今井玉三郎	明治四二年三月	一	二三	一四五
古今 女流俳句集	靱山 泰一	昭和二年三月	一	二三	一五二
梓雪句集	安井知之	大正十一年十月	一	二三	一四三
小西 杉の實	木村牛文鏡	大正十五年九月	一	二三	一五一
川柳作法	寒川 鼠骨	大正三年七月	一	二三	一四七
初學俳句叢書 <small>(模範書籍 第三十二編)</small>	同	大正二年五月	一	二三	一四七
運座必携俳句會心要	同	同	同	同	同

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
同春夏蕪村七部集俳句評釋	内藤 鳴雪	大正二年三月	一	二三	一四七
同秋冬子規俳句評釋	寒川 鼠骨	大正十二年一月	一	二三	一四七
同續芭蕉俳句評釋	同	大正二年七月	一	二三	一四七
同俳家必讀著名俳句評釋	同	大正三年一月	一	二三	一四七
蕪門俳諧後集	神田 豊穂	大正十三年八月	一	二三	一三六
蕪門俳諧文集	神田 豊穂	大正十五年九月	一	二三	一三六
續々芭蕉俳句研究	幸田 露伴	大正十五年五月	一	二三	一四二
真門俳諧集	神田 豊穂	大正十五年二月	一	二三	一三六
増補 俳諧歳時記 萩草	曲亭 馬琴	大正十五年二月	一	二三	一四四
俳人叢書第四編 笈日記	小澤 武二	大正十五年三月	一	二三	一四〇
俳句作法	木村 秋存	大正十五年九月	一	二三	一五〇
俳句入門叢書 秋冬芭蕉	内藤 鳴雪	大正二年六月	一	二三	一四五
俳句評釋	佐藤 紅綠	大正二年九月	一	二三	一四五
同蕪村俳句評釋	内藤 鳴雪	大正二年五月	一	二三	一四五
同春夏芭蕉俳句評釋	同	同	同	同	同
同蕪村七部集俳句評釋	同	同	同	同	同

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
同春夏大家模範俳句集	同	大正二年八月	一	二三	一四五
同春夏子規俳句評釋	寒川 鼠骨	大正二年六月	一	二三	一四五
同大家苦心俳句練習談	同	大正二年八月	一	二三	一四五
俳諧七部集新釋	岩本 梓石	大正十五年九月	一	二三	一四九
芭蕉一代集 <small>日本俳書 大系第一卷</small>	神田 豊穂	大正十五年六月	一	二三	一三六
幻の庵雪の葉 <small>古俳書文庫 第十九編</small>	野田 別天樓	大正十五年三月	一	二三	一一一
實趣味の講話集	山北 清次	大正十五年二月	一	二四	一〇五
武藤長藏論文集	岩田 九郎	大正十五年二月	一	二四	一〇五
ラジオ講演集 第八輯	武藤 長藏	同	同	同	同
ラジオ講演集 第七輯	同	同	同	同	同
同 第三輯	同	同	同	同	同
同 第四輯	同	同	同	同	同
同 第五輯	同	同	同	同	同
同 第六輯	同	同	同	同	同
愛し得ぬ悲み	三宅 やす子	大正十五年七月	一	二五	一〇五四
仇討五十種 <small>讀物文藝叢書 第十二編</small>	千葉 龜雄	大正十四年六月	一	二五	一〇九二
怪奇 愛慾地獄 <small>探偵傑作 叢書四二</small>	カボリオ	大正十五年六月	一	二五	一〇二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
アラビヤナイト物語	成光館 編輯部	大正十五年八月	一	二五	一〇八八
荒木又右衛門	小久保 陽三	大正十五年九月	一	二五	一〇八一
愛の道	加藤 武雄	大正十五年五月	一	二五	一〇四四
曉の御空より	上澤 謙二	大正十五年四月	一	二五	一〇四九
赤い屋根	谷崎 潤一	大正十五年九月	一	二五	一〇七五
噫無情	黒岩 涙香	大正十五年四月	一	二五	一〇三一
愛の學校	三浦 修吾	大正十五年八月	一	二五	一〇二六
一休旅ごろも蜀山人傳	松龍齋 貞丈	大正十五年七月	一	二五	一〇二八
いたづらもの	村上 浪六	大正十四年六月	一	二五	一〇三三
石切峠	霜猿 迂人	大正十五年七月	一	二五	一〇二八
生ける寶冠 <small>探偵傑作叢書 第四十五編</small>	ドウリ七 小酒井 不木譯	同	同	同	同
腕 <small>(秘録)</small>	小泉 總之助	大正十五年六月	一	二五	一〇六四
暮末 渦巻く風雲	小金井 虚洲	大正十五年八月	一	二五	一〇八三
上田力	村上 浪六	大正十五年六月	一	二五	一〇八一
浮世の穴	同	大正十四年三月	一	二五	一〇九六

書名

遠雷門工事	白井喬二	大正十五年五月	一二五	一〇五三
艶説蟻地獄	大佛次郎	大正十四年五月	一二五	一〇七三
長編 大石良雄	寶井琴窓	大正十五年六月	一二五	二八
お菊さん	佛上白川	大正四年五月	一二五	一〇九二
巖窟王 下	黒岩 涙香	大正十五年四月	一二五	三六三
川 徳	村上 瀨	大正十五年八月	一二五	五九九
川上三吉	同	大正十五年六月	一二五	一〇九五
長編 鎌倉三代記	寶井琴窓	大正十五年六月	一二五	二八
敵討鎗諸共	長谷川 伸	大正十五年五月	一二五	二六九
近世紀聞	染崎 延房	大正十五年十月	一二五	二二七
捕物疑雲渦巻く	屋島 史郎	大正十五年八月	一二五	一〇五七
義民 木内宗吾	北村 芳雄	大正十五年八月	一二五	一〇八二
歡仰されぬ男	正宗 白鳥	大正十五年六月	一二五	一〇五一
黒田健次	村上 瀨	六同	一二五	一〇九三
倉橋幸藏	村上 瀨	六同	一二五	一〇九九

書名

俠骨三人男	同	大正十四年七月	一二五	一〇二二
現代小説全集 五卷	久米 正雄	大正十五年四月	一二五	九七一
同 六卷	佐藤 春夫	大正十五年六月	一二五	九七一
同 八卷	志賀 直哉	大正十五年二月	一二五	九七一
同 十一卷	田山 花袋	大正十五年三月	一二五	九七一
現代傑作選集	銀皿社同人	大正十五年九月	一二五	九八四
怪奇 拳骨	延原 謙	大正十五年四月	一二五	一〇二六
元祿女	村上 瀨	六同	一二五	二二七
湖半亭事件	戸江川 亂歩	大正十五年十月	一二五	一一一五
相馬事件の真相	矢田 掃雲	大正十三年九月	一二五	一〇五二
潤一郎傑作全集第二卷	谷崎 潤一郎	大正十三年七月	一二五	五七六
同 第四卷	同	大正十三年七月	一二五	五七六
受難華 中巻	菊池 寛	大正十五年七月	一二五	一〇〇二
江戸春宵和尚奇談	大佛次郎	大正十五年十月	一二五	一〇六三
審判	加藤 武雄	大正十五年六月	一二五	一〇六六

書名

女警夜話	佐々木 味津三	大正十三年七月	一二五	一〇八〇	
シヤロツクホルムス物	コナン、ドイル	成光館編輯部	大正十五年六月	一二五	一〇八九
新居	小島 政二郎	大正十五年八月	一二五	一一〇	
神變吳越草紙	白井 喬二	大正十五年九月	一二五	一一三	
處 女	中村 武羅夫	大正十五年五月	一二五	一〇六〇	
悲戀 心中が丘	沼田 蔵六	大正十五年九月	一二五	一〇七六	
すて小舟	黒沢 岩香	大正十五年六月	一二五	五七九	
現代語 水滸傳 前編	蒲原 春夫	大正十五年一月	一二五	一〇五〇	
正義の四人	ウオイレ、ス	大正十五年一月	一二五	一〇六六	
西南戦争 前編	延原 謙	大正十五年一月	一二五	一〇六六	
晴 夜	平山 盧江	大正十五年十月	一二五	一一二	
剪燈新話	久米 正雄	大正十四年五月	一二五	一〇四八	
怪奇 鐘樓の謎	田中 貢太郎	大正十五年八月	一二五	一〇七一	
探偵 鐘樓の謎	ア、フ、アイ、ブル	森下 雨村	大正十五年六月	一二五	一〇二六
幕末 續劍は鳴る	吉川 延	大正十五年四月	一二五	一〇八四	
蘇 生	鶴田 秋 整	大正十五年七月	一二五	一一二四	

書名

男女の戦ひ	村 上 瀨	六同	一二五	一〇〇〇
縮刷 大菩薩峠 第一	中里 介山	大正十四年七月	一二五	一〇一九
同 第二	同	大正十四年六月	一二五	一〇一九
同 第三	同	大正十四年七月	一二五	一〇一九
同 第四	同	大正十三年四月	一二五	一〇一九
地獄變	芥川 龍之助	大正十五年二月	一二五	一〇六一
幕末風 机龍之助	通俗讀物普及會	大正十五年六月	一二五	一〇五九
雲兒 椿 姫	フエー、マ	大正十五年六月	一二五	三六一
全譯 罪と罰	福永 換歌	大正十五年六月	一二五	一〇八六
罪の渦	ドフトイ、エ、フ、ス	大正十五年六月	一二五	一〇八六
天眼通	キー、生、田、長、江	大正十五年六月	一二五	一〇八六
テレツマツク物語	井 上 勇	大正十五年七月	一二五	一〇八七
幕末 遠山左衛門	村上 瀨	六同	一二五	一〇七四
秘聞 獨歩名作選集	佛、フ、エ、ス、ロン	大正十五年八月	一二五	一〇七四
現代 殿様源次	木村 幹	大正十五年二月	一二五	一〇四六
今村 次郎	柴田 芳水	大正十五年三月	一二五	一〇四五
大正十五年七月	今村 次郎	大正十五年七月	一二五	二八

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
桃花扇傳記	山口	剛大正十五年七月	一二五	一〇八五	
唐人船 (天の巻)	平山 盧	江大正十五年十月	一二五	一〇七九	
當世五人男	村上 浪	六 大正十五年六月	一二五	一〇九四	
怪奇 名の無い男	小川 水村	大正十五年八月	一二五	一〇二六	
浪六傑作集 戀愛編	菊池 曉汀	大正十五年三月	一二五	一〇四四	
同 傑作編	同	大正十五年七月	一二五	一〇四四	
同 人情編	同	同	一二五	一〇四四	
忍術己來也	白井 喬二	大正十五年九月	一二五	一〇九二	
日 輪	三上 於菟吉	大正十五年九月	一二五	一〇六五	
寛永 二人合邦	星龍齋 貞丈	大正十五年三月	一二五	一〇二六	
長編 日本名刀傳	茶々齋 桃葉	大正十五年七月	一二五	一〇二八	
日本五大お家騒動	石井 香夢	大正十五年六月	一二五	一〇五六	
人間開業	大泉 黒石	大正十五年三月	一二五	一〇七〇	
後の巖窟王 上	黒岩 涙香譯	大正十五年五月	一二五	一〇三三	
野の花	同	大正十四年十月	一二五	一〇七七	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
幕末奇聞 祐天仙之助	悟道軒 圓玉	大正十五年三月	一二五	二八	
兩面藤三	同	同	同	同	
畔倉半四郎、明和三人娘	同	大正十五年十月	一二五	二八	
原田甲斐	村上 浪	六 大正十五年八月	一二五	一〇九八	
灰の中に芽 (第三、四合本)	同	大正十五年五月	一二五	一〇六六	
ぐむ時代相	同	同	同	同	
薄明の塔	淺原 鏡村	大正十五年九月	一二五	一一二二	
白鳥傑作集 第四卷	正宗 白鳥	大正十五年五月	一二五	一〇四三	
人の運	黒岩 涙香譯	大正十五年七月	一二五	五七九	
左甚五郎	藤川 洗三郎	大正十五年八月	一二五	一〇七八	
仇討 肥後の駒下駄	茶々齋 桃葉	大正十五年七月	一二五	一〇二八	
婦系圖	泉 鏡花	大正十三年七月	一二五	一〇五六	
富士に立つ影 神曲編	白井 喬二	大正十五年五月	一二五	一〇九五	
同 歸來編	同	大正十五年一月	一二五	一〇九五	
同 主人公編	同	大正十四年十月	一二五	一〇九五	
同 新聞編	同	大正十五年五月	一二五	一〇九五	
同 フアウスト	同	大正十五年一月	一二五	一〇七七	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
探偵 鼻	小泉 總之助	大正十五年六月	一二五	一〇六七	
不思議な犯罪の話	大森 洪太	大正十五年九月	一二五	一〇二八	
文化五人男、淺妻お仙	神田 伯龍	大正十五年十月	一二五	一〇二八	
奔 流	三宅 ヲ子	大正十五年六月	一二五	一〇五五	
マスタピイス	シエクスピア 坂井 律譯	大正十五年七月	一二五	一〇九〇	
探偵 眼	小泉 總之助	大正十五年五月	一二五	一〇四七	
三勝 半七 八百屋お七	神田 伯龍	大正十五年五月	一二五	一〇二八	
内地 朝顔日記	春のおぼろ	大正十五年八月	一二五	一〇七二	
雜居 未來の夢	正木 不如丘	大正十五年八月	一二五	一〇六八	
漢留比湮	松龍齋 貞丈	大正十五年七月	一二五	一〇二八	
祐天仙之助、兩面藤三	アレキサンダー ル、アエドマ 成光館編輯部譯	大正十三年七月	一二五	一〇九二	
モン・トクリスト物語	村上 浪	六 大正十五年六月	一二五	一〇九七	
吉田雄藏	村上 浪	六 大正十五年八月	一二五	一〇一五	
落花狼藉	高垣 除	大正十五年二月	一二五	一〇六二	
海賊 龍神丸	ミルレル 佐藤 通次譯	大正十五年二月	一二六	一八八	
悲劇的 オルレアンの乙女	同	同	同	同	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
現代戯曲選集 第三卷主	小山内 薫	大正十五年六月	一二六	一八三	
同 第八卷	久保田 萬太郎	大正十五年六月	一二六	一八三	
同 第十卷 坊主清吉	岡本 綺堂	大正十五年七月	一二六	一八三	
現代戯曲全集 第十九卷	株式會社	大正十五年六月	一二六	一六四	
同 第十五卷 正宗白鳥外五名	正宗 白鳥	大正十五年一月	一二六	一六四	
現代戯曲全集 第十八卷 坪内逍遙外十名	坪内 逍遙	大正十五年五月	一二六	一六四	
同 第十七卷	國民圖書株式會社	大正十五年四月	一二六	一六四	
現代戯曲選集 第四卷 母親	關口 次郎	大正十五年三月	一二六	一八三	
同 第九卷 男達ばかり	池田 大伍	大正十五年五月	一二六	一八三	
現代戯曲選集 七卷 地蔵 教の由來	久米 正雄	大正十五年五月	一二六	一八三	
現代戯曲選集 六卷 生きて居る小平次	鈴木 泉三郎	大正十五年五月	一二六	一八三	
古典劇大系 第八卷 佛蘭西編	吉澤 孔三郎	大正十五年七月	一二六	一六二	
同 第六卷 英吉利編	吉澤 孔三郎	大正十五年五月	一二六	一六二	
同 第三卷 羅馬編	吉澤 孔三郎	大正十五年八月	一二六	一六二	
時代狂言傑作集 第五卷	濱村 米藏	大正十五年七月	一二六	一八二	



書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
同 第四卷	竹河 繁 名 俊 同	大正十五年七月	一二六	一八二	
潤一郎戯曲傑作集	谷崎 潤一 名 俊	大正十五年七月	一二六	一八六	
世話狂言傑作集第八卷	河竹 繁 名 俊	大正十五年五月	一二六	一七二	
同 第九卷	河竹 繁 名 俊	大正十五年七月	一二六	一七二	
近松全集 第五卷	藤井 乙 名 男	大正十五年四月	一二六	一七三	
同 第六卷	藤井 乙 名 男	大正十五年六月	一二六	一七三	
罪と罪死の舞踏	三井 光 彌 名 男	大正十五年五月	一二六	一八七	
まちがひつすき	坪内 逍 遙 名 男	大正十五年五月	一二六	一八五	
ウイン の陽氣な女房	同	大正十五年五月	一二六	一八四	
漢文新釋	木村 郁 三 名 男	大正十四年九月	一二八	二〇六	
寛齋先生餘稿	市河 三 陽 名 男	大正十五年六月	一二八	二〇九	
自修漢文讀本 第一、二、三、四、五卷	研究社 編輯部	大正十五年九月	五二八	二〇六	
支那小説戯曲史概説	宮原 民 平 名 男	大正十四年三月	一二八	二〇五	
茶陽三家文集	唐本	二二八	二〇七		
イブセン 第十卷	中村 吉 藏 名 男	大正十五年六月	一二九	二〇七	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
須因 英文學詳解	岡村 愛 藏 名 男	大正十五年三月	一二九	二八	
英詩概論	厨川 白 村 名 男	大正十五年七月	一二九	三〇	
カアライル、エマアス	守田 中 王 堂 名 男	大正十五年七月	一二九	二七	
世界文學大綱 第二卷	守田 中 王 堂 名 男	大正十五年七月	一二九	二七	
クライスト (世界文學大綱十四卷)	濱 野 修 名 男	大正十五年七月	一二九	二七	
ゲーテ	山 岸 光 宣 名 男	大正十五年五月	一二九	二六	
シェークスピア (世界文學大綱三卷)	高 原 延 雄 名 男	大正十五年一月	一二九	二七	
シルレル (世界文學大綱二十卷)	高 橋 健 二 名 男	大正十五年十月	一二九	二七	
征佛記 (ゲーテ全集)	小 野 澤 百 八 名 男	大正十四年五月	一二九	二〇九	
羅馬滯在 (ゲーテ全集)	小 野 澤 百 八 名 男	大正十四年五月	一二九	二〇九	
獨逸文學史	羅バアトソ 義 譯 名 男	大正十五年四月	一二九	二五	
ドストエ (世界文學大綱十七卷)	森 田 草 平 名 男	大正十五年三月	一二九	二七	
フアウスト (ゲーテ全集)	泰 豐 吉 名 男	大正十五年一月	一二九	二〇九	
レフ、トルストイ (世界文學大綱十六卷)	米 川 正 夫 名 男	大正十五年九月	一二九	二七	
國字問題の解決	前 田 直 平 名 男	大正十五年七月	一二九	二七一	
日本語原	井 口 丑 三 名 男	大正十五年六月	一二九	二七三	
文章に入る道	前 田 直 平 名 男	大正十五年四月	一二九	二七一	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
受驗 まごまつた國語	茶 屋 忠 治 名 男	大正十三年三月	一二二	二六三	
都會語	堀 英 四 郎 名 男	大正十五年六月	一二三	二二	
最近 時文寶鑑	田 井 嘉 藤 次 名 男	同	一二三	二〇	
重要 五千字記憶法	勝 田 存 興 名 男	大正十五年一月	一二四	二六	
鑑賞 英詩の味ひ方	伊 藤 勇 太 郎 名 男	大正十五年七月	一二四	二七	
自修 英文法の鍵	英語學習指導會	大正十五年九月	一二四	二七九	
英語基本單語 四〇〇	不破 瑤 磨 太 名 男	大正十五年六月	一二四	二七三	
英文法の講義	山 田 巖 名 男	大正十五年二月	一二四	二八一	
クリスマススカロール講義	幡 谷 正 雄 名 男	大正十五年九月	一二四	二八〇	
新英和大辭典	岡 倉 由 三 郎 名 男	昭和二年三月	一二四	二八三	
スケッチブック上巻全譯	森 吉 譯 名 男	大正十五年三月	一二四	二七五	
ハウスオポコブウエ	牧 一、寺 邦 男 共 譯 名 男	大正十五年七月	一二四	二七四	
米國人のロンドン見物	島 屋 政 一 名 男	大正十五年五月	一二四	二七二	
新式 和文英譯狙ひ所	鈴 木 芳 松 名 男	大正十五年九月	一二四	二八二	
聖ドミンゴ島の婚約	相 良 守 峰 名 男	大正十五年八月	一二五	二四二	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
マリア、マグダレーネ	獨、ハツベル 吹田 順 助 譯 名 男	大正十五年七月	一二五	二二	
ミニヨン	林 久 名 男	大正十五年八月	一二五	二三	
佛語便覽	落 合 太 郎 名 男	大正十五年五月	一二六	七	
露西亞語獨修	內 藤 三 雄 名 男	大正十五年五月	一二七	二	
獨譯 ニクブン文典	渡 邊 蕭 太 郎 名 男	昭和二年三月	一二八	一〇	

### 第三門 歴史、傳記、地誌、紀行

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
歴史敘述の理論及歴史	羽 生 五 郎 譯 名 男	大正十五年十月	一三〇	三九	
最近 學生の日本歴史	三省堂 編輯部	大正十四年九月	一三一	一八五	
郷土制度の研究	小 野 武 夫 名 男	大正十五年六月	一三一	二七四	
講談日本外史 第五卷	今 山 三 郎 名 男	大正十五年二月	一三一	一七五	
同 第四卷 戰國郡縣の卷	今 山 三 郎 名 男	大正十五年四月	一三一	一七五	
同 第五卷 豐臣秀吉の卷	今 山 三 郎 名 男	大正十五年三月	一三一	一七五	
講談日本外史 第六卷 徳川家康の卷	今 山 三 郎 名 男	大正十五年九月	一三一	一七五	
國史新辭典	菊 池 勝 之 助 名 男	大正十五年九月	一三一	一九二	
新撰國史談 上巻	笹 川 一 名 男	大正十五年四月	一三一	一八四	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
趣味と研究受験の參理 考想の日本歴史(上卷)	中等教育會	大正十五年四月	一三二		一八三
趣味の受験の參考理想 研究の日本歴史(下卷)	中等教育會	大正十五年四月	一三二		一八三
趣味の日本史 第二卷	新保 磐次	大正十四年七月	一三一		一六
同 第三、四、五	同	大正十四年十月	三三二		一六
自學自習趣味の日 中等參考本歴史 上下	橋本 辰彦	大正十四年四月	二二二		一八八
綜合日本史大系 第二卷 奈良朝	西岡 虎之助	大正十五年八月	一三二		一九〇
驗受と 日本史	山本 荒吉	大正十五年一月	一三一		一八七
日本歴史の裏面	谷口 政徳	大正十五年四月	一三一		一八九
少年 古事記物語	宮崎 久松	大正十五年七月	一三二		二九
神皇正統記新釋	森山 右一	大正十五年七月	一三二		三〇
近世日本 寶曆明和篇	徳富 猪一郎	大正十五年九月	一三四		三四
同 吉宗時代	同	大正十五年六月	一三四		三四
嗚呼大正天皇	杉 謙二	昭和元年十二月	一三五		二四
壯烈悲壯 幕末流血史	江東 天風	大正十五年三月	一三五		二五
趣味 明治美談	遠藤 早泉	大正十四年六月	一三五		二六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
今宮町志	貞本 義保	大正十五年九月	一三六		二九六
維新日乘纂輯 第四	大塚 武松	昭和二年二月	一三六		二五九
同 第三	岩崎 英重	大正十五年五月	一三六		二五九
江戸の噂	三田村 玄龍	大正十五年三月	一三六		二九二
越佐史料 卷二	高橋 義彦	大正十五年八月	一三六		二二六
加賀藩史料	永山 近彰		一三六		二七六
議奏加勢備志 第二	岩崎 英重	大正十五年七月	二二六		二九五
楠正成奥判文書			一三六		四三
孤島苦の琉球史	伊 汲 普 猷	大正十五年十月	一三六		二九八
埼玉、茨城、群馬、三 縣下に方ける指定史蹟	内 務 省	昭和二年三月	一三六		三〇〇
緒方系譜考	緒方 富雄	大正十五年三月	一三六		二九〇
緒方港庵と足守	緒方 錦次郎	昭和二年一月	一三六		二九〇
坂本龍馬關係文書 第二	岩崎 英重	大正十五年六月	一三六		二五七
史蹟調査報告 第一	内 務 省	編 大正十五年三月	二二六		二八〇
諏訪史料叢書 卷五	諏訪 史料	諏訪 史料 叢書刊行會	昭和二年一月	一三六	二四九

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
西南文運史料	武藤 長平	大正十五年六月	三三六		二八四
大日本古文書 第九 家わけ	東京帝國大學	大正十五年九月	一三六		二
大日本史料 吉川家文書之三	同		一三六		二七
同 第六編之二十二	東京帝國大學	大正十五年三月	一三六		一七
筑後國史 上卷	矢野 一貞	大正十五年八月	一三六		二八六
天保改革鬼譚	石井 研堂	大正十五年七月	一三六		二六七
天然紀念物調査報告	内 務 省	大正十四年十月	七三六		二七九
動物之部 第一輯	同				
植物之部 第一輯	同				
植物之部 第六輯 (四輯欠)	同				
栃木縣に於ける指定史蹟	内 務 省	大正十五年十月	一三六		二八三
登米郡史 上下卷	宮城縣 登米郡役所	大正十二年三月	二二六		二八二
史料 南海通記	香 西 成 實	大正十五年五月	一三六		二七七
南蠻紀文選	三島 才二	大正十五年四月	二二六		二八八
長崎叢書 第二耶蘇會 年報第一卷	村上直次郎	大正十五年九月	一三六		二七六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
長崎叢書(長崎夜話草) 原城記事	長崎市役所	大正十五年十月	一三六		二七六
長崎丸山噺	木山 桂川	大正十五年四月	一三六		二七五
日本民俗志	中山 太郎	大正十五年六月	一三六		二九九
福島縣通史	池内 儀八	大正十五年二月	一三六		二九七
宮崎縣史蹟調査 第五輯	宮崎 縣	昭和二年一月	一三六		二八九
明治維新の第一犧牲者天誅組 總長松本圭堂先生晩年の事蹟	武 岡 豐 太		一三六		二八一
淀稻葉家文書	稻葉家藏版	大正十五年五月	一三六		二九四
吉川經幹周施記 第一、四	大塚 武松	大正十五年八月	三三六		二九三
臺灣大年表	臺灣經世新報社	大正十四年七月	一三七		二七
李王宮秘史	樺藤 四郎介	大正十五年八月	一三七		二六
國朝史論華論	海虞 文 社		一三八		九三
受檢 中等東洋史詳解	西 臺 來 太 郎	大正十五年九月	二三八		九三
東洋歴史參考圖譜	石田 幹之助		一三八		五〇
東洋史觀	鳥山 喜一郎	大正十五年二月	一三八		九四
興亡五千 年 史アラビヤの物興小	里 鷺 里	大正十五年二月	一三九		八三

書名 著者名 発行年月 冊数類目 番號

瓜哇史 フロイン、メー 松岡静雄譯 大正十五年七月 一三九 八四

世界歴史 西洋文明流の搖籃 中島 孤島 大正十五年七月 一三九 八二

研究 西洋史 寺島 圭三 大正十四年五月 一三九 八一

獨逸思潮史 泰西名著歴史 獨逸の歴史 飯田 忠紀 大正十四年七月 一三九 五〇

名人百話 熊田 葦城 大正十五年三月 一三〇 二四

岡野敬次郎傳 岡野敬次郎博士 記録 編纂委員 大正十五年三月 一三二 四〇九

加賀松雲公 上中下 近藤 繁雄 明治四二年二月 三三二 四〇四

大隈侯八 自第一卷 至第三卷 大隈八十五年史 編纂會 大正十五年二月 三三二 四〇四

十五年史 北島雪山事項 石崎 西之九 大正十六年八月 一三二 三九九

高陽山人 寺名 正路 昭和二年三月 一三一 四二二

職員録 大正十五年七月 一月一日現在 内閣印刷局 大正十五年九月 一三二 二七

十大先覺記録傳 大田原 在文 大正十五年九月 一三二 四〇八

贈正五位二宮敬作先生 略傳 二宮 義親 大正十三年六月 一三二 四〇〇

大西郷言行録 江東 天風 大正十五年二月 一三二 四二〇

大日本人名辭書 下巻 大日本人名辭書 會 大正十四年六月 一三二 三九八

書名 著者名 発行年月 冊数類目 番號

同 首巻 大日本人名辭書 大正十五年十月 一三二 三九八

高峰博士 監原 又策 大正十五年八月 一三二 四〇三

工學 長野金吾傳 白鳥 省吾 大正十五年三月 一三二 四二二

長崎縣職員録 長崎 縣 編 大正十五年九月 一三二 二二

物部氏及宮道氏の裔 蜷川 新 大正十三年十月 一三一 四〇六

森田節齋先生の生涯 武岡 豐太 大正十五年四月 一三一 四〇七

山鹿素行 齊藤 弔花 大正十五年二月 一三一 四〇二

頼山陽 徳富 蘇峰 大正十五年三月 一三一 四〇三

平民 若槻禮次郎 尼子 止 大正十五年六月 二二二 四〇一

アダムト家康 内山 舜 大正十五年五月 一三二 八〇

永遠の アンダセン 蘆谷 蘆村 大正十四年九月 一三二 八二

支那人名辭書 上巻 難波 常雄 大正十五年八月 一三二 八三

同 下巻 大正十五年十月 一三二 八三

黎明期に於ける印度十 高田 雄種 大正十三年四月 一三二 八二

五傑 第一人物隨録 徳富 猪一郎 大正十五年五月 一三二 三二

書名 著者名 発行年月 冊数類目 番號

百魔 杉山 茂丸 大正十五年五月 一三三 三三

無名の英雄と失敗の英雄 村上 信 大正十四年七月 一三三 三三

参考日本地理講話 西川 卯八 大正十五年九月 一三〇 三九

太平洋を圍繞する諸洲の地理 長谷川 與三治 大正十五年六月 一三〇 三六

趣味と研究 理想の世界地理 中等教育會 大正十五年五月 一三〇 三七

最近訂學生の日本地理 三 省 堂 大正十四年九月 一三二 二八

大正 十四年 長崎縣要覽 長崎 縣 大正十五年五月 一三一 一〇

長崎港勢要覽 長崎 市役所 同 一三一 一三

日本の誇中部 北垣 恭次郎 大正十五年三月 一三一 一三〇

第四 日本橋區勢要覽 東京日本橋區役 所 昭和二年四月 一三一 一三三

地理 日本の誇奥羽 北垣 恭次 大正十四年八月 一三一 一三〇

文庫 日本地理精 受驗 研究會 大正十五年十月 一三二 一三四

得たる研究の 義 趣味と研究 理想の日本 中等教育會 大正十五年五月 一三一 一三一

第十 權太廳治一斑 權 太 廳 大正十四年七月 一三三 三五

第七 權太廳治一斑 權 太 廳 大正十五年八月 二二三 三六

書名 著者名 発行年月 冊数類目 番號

權太案内 同 大正十二年六月 一三三 三八

權太沿革史 同 大正十四年八月 一三三 三九

權太廳治要覽 同 一三三 二六

經濟上より見たる北 關根 齊一 昭和二年四月 一三三 四〇

權太 昭和 朝鮮總督府 昭和元年十二月 一三三 三三

二年 關東廳施政二十年史 關 東 廳 大正十五年九月 一三三 五〇

滿蒙都邑全誌 山田 久太郎 大正十五年十月 一三三 五五

印度と南洋 吉田 岩平 大正十五年七月 一三四 一〇五

支那研究 第十二號 東亞同文書院 支那研究部 一三四 八一

同 第十三號 同 昭和二年三月 一三四 八一

同 第十一號 同 大正十五年九月 一三四 八一

支那開港場誌 第二卷 東亞同文書院 會 調查部 一三四 一〇六

受驗 世界地理 杉山 助之進 大正十四年七月 一三四 一〇三

大正西城記 東南印度諸國 高桑 駒吉 大正十五年七月 一三四 一〇七

に記せる の研究 權 太 廳 昭和元年十一月 一三五 三五

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
歌來 過去より現在へ	三浦周行	大正十五年七月	一三五	一九九	
趣味 古社寺をたづねて	齊藤隆三	同	一三五	一九九	
死都ボンベイを訪ふた	下井春吉	大正十五年十月	一三五	二〇〇	
支那遊記	芥川龍之助	大正十四年十月	一三五	一九七	
支那 西湖より包頭まで	藤田元春	大正十五年五月	一三五	二〇一	
支那 民謡をたづねて	松川二郎	大正十五年六月	一三五	二〇二	
島之都	橋本白木	大正十五年九月	一三五	二〇〇	
新上海	附蘇洲、枯洲、南京の案内 江南健兒	同	一三六	一九九	
長久の支那	後藤朝太郎	昭和二年一月	一三六	二二	
楊子江 長江の旅	上海經濟新聞編輯局	大正十四年十月	一三六	一〇八	
福岡市案内	長田義彦	昭和二年三月	一三六	二二	

第四門 政治、法律、經濟及財政、社會統計

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
官報	同	自四七號至九八號	同	一四〇	五〇
官報	昭和二年一月中 自一號至廿六號	同	同	一四〇	五〇
官報	大正十五年九月分	同	同	一四〇	五〇
官報	昭和二年二月中 自二七號至四七號	同	同	一四〇	五〇
憲政會史	憲政史編纂所	同	同	一四〇	一四八
支那は果して無力であるか	齊藤逸治	大正十四年十月	一四〇	一五〇	
政治教育	林田龜太郎	大正十五年七月	二四〇	一四六	
政治教育	池田直子	大正十五年六月	一四〇	一四九	
朝鮮人の思想と性格	久木獨石馬	大正十五年六月	一四〇	一四七	
朝鮮の物産	朝鮮總督府	昭和二年三月	一四〇	一五一	
汎亞細亞運動と汎歐羅巴運動	永富守之助	大正十五年四月	一四〇	一四五	
帝國議會貴族院議事	同	昭和二年三月	一四二	五〇	

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
警察辭典	富益義衛	大正十五年五月	一四二	二二三	
行政法撮要	美濃部達吉	大正十五年一月	一四二	二二	
市制町制 逐條示解	五十嵐長三郎	大正十五年五月	一四二	二五	
地方青年の教養	守屋榮夫	大正十二年四月	一四二	二六	
地方制度通	井上圓三	大正十五年八月	一四二	二三	
長崎縣公報	同	自一四六三號至一四八六號	同	一四二	五〇
同	同	自一四八七號至一四九五號	同	一四二	五〇
同	同	自一四三七號至一四四五號	同	一四二	五〇
同	同	自七月至九月	同	一四二	五〇
農村教育の理想	小川友吉	大正十五年十月	一四二	二四	
大正十五年 第九回 國際勞働總會報告書	同	大正十五年二月	一四三	七六	
昭和二年 第九回 國際勞働總會報告書	同	同	一四三	七六	
一九二五年第七回 國際勞働總會に於て採擇せられたる條約案及報告	同	同	一四三	九三	

書名	著者名	發行年月	冊數	類目	番號
國際間諜戰	シロシ、プライムシロ	大正十五年五月	一四三	九五	
下關春帆梅に於ける兩雄の會見	柳井義男	大正十五年四月	一四三	九二	
米國より日米爭覇戰	石丸藤太	大正十五年八月	一四三	九六	
巴里講話會議と私の日記	地川	大正十五年十月	一四三	九四	
法律學說 評論全集 第二卷	高窪喜八郎	大正十五年五月	一四〇	一八〇	
同 第二、三、一〇卷各上下	同	同	同	一八〇	
同 第六、四、五、六、七、八、九、十卷各上下	同	同	同	一五四〇	一八〇
文檢參考 問題中心 法律經濟精義	濱野宮之助	大正十五年六月	一四〇	一九三	
法曹珍話 閻魔帳	無田學博士	大正十五年六月	一四〇	一九二	
住宅組合法解釋	里見馬城夫	大正十四年三月	一四二	八〇	
相續法大意	穂積重遠	大正十五年十月	一四二	八一	
本邦社債略史	高平隆雄	昭和二年五月	一四三	五〇	
日本刑法論總論	泉二新熊	大正十四年九月	一四三	五三	
陪審制度の話	司法省 刑事局	大正十五年三月	一四三	二三	
和 譯 歐洲各國民事訴訟法	司法省 藏版	大正十五年五月	二四四	二五	

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
刑事訴訟法指山歸 <small>第二册分</small>	板倉松太郎	大正十五年十月	一四四		二四
保全訴訟假 <small>假差押及假處分</small> 要論	松岡義正	大正十五年九月	一四四		二七
民事訴訟法	鈴木玄之助	大正十五年九月	一四四		二六
電話加入權に <small>學說判例</small>	小林一郎	大正十五年五月	一四五		二二
勞働者募集取締令釋義	木村清司	大正十五年三月	一四七		一九
カッセル社學經濟學	大野信三	大正十五年八月	一四三〇		一九一
原論	賀重	大正十五年六月	一四三〇		一八八
最近經濟問題及社會問題之協調的解釋	神戶正雄	大正十三年七月	一四〇		一八七
財づる物語	下田將美	大正十五年十月	一四三〇		一九三
支那改造論	田崎仁義	大正十五年六月	一四三〇		一九〇
資本論 第三卷上	マルクス	大正十五年六月	一四三〇		一八九
マルクス資本論の展開	ヘルマン、カール、小栗慶太郎譯	大正十五年九月	一四三〇		一九二
移住關係法規 (譯本)			一四二		四七
殖民地便覽	東郷 實	大正十五年四月	一四三二		四五
昭和二年 殖民地便覽	内閣拓殖局	昭和二年二月	一四三二		四六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
大正十年 大日本帝國臺灣統計	内務省	昭和二年三月	一四三二		三〇
ブラジル	山崎芳藏	大正十五年五月	一四三二		四四
金の廻し方と殖し方	長井修吉	大正十五年八月	二四三		五〇
社債及社債信託論	栗栖越夫	大正十五年七月	一四三		四九
大日本貨幣史 第八卷	本庄榮治郎	大正十五年五月	一四三		四三
昭和二年 内國郵便爲替業務	貯金局	昭和二年一月	一四三二		六七
昭和二年 内國郵便業務	同	昭和二年一月	一四三二		六八
昭和二年 振替貯金業務	同	昭和二年一月	一四三二		六八
昭和二年 金恩給業務	同	昭和二年一月	一四三二		六八
昭和二年 郵便貯金業務	同	昭和二年一月	一四三二		六八
財界恐慌論	米テイ、バアリ、トシ、佐竹三吾譯	大正十五年十月	一四四〇		二九
改正個人所得稅 要覽	乙種資本利子稅		一四四一		二三
第三十 全國公債社債	渡邊勝男	和和二年三月	一四四二		五
豫算概論	西野 元	大正十五年五月	一四四三		一一
近世社會思想史大要	小泉信三	大正十五年七月	一四五〇		二二三
現代の社會と經濟	河田嗣郎	大正十五年八月	一四五〇		二二七

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
經濟的文化史	カンニンガム 一氏 義良譯	大正十五年三月	一四五〇		二二四
新生日本	中川壽人	大正十五年五月	一四五〇		二二〇
社會疾患	宮崎三郎	大正十五年七月	一四五〇		二二二
支那の社會相	後藤朝太郎	大正十五年七月	一四五〇		二二三
新日本への道	佐藤鐵太郎	大正十五年十月	一四五〇		二三五
人格的生活の原則	大川周明	大正十五年五月	一四五〇		二二五
社會讀本	永井 享	大正十五年四月	一四五〇		二二〇
社會文化と人間改造	帆足理一郎	大正十五年五月	一四五〇		二二三
世界現勢と大日本	滿川龜太郎	大正十五年四月	一四五〇		二二六
大日本國民軌範	山田重洋	大正十四年六月	一四五〇		二二四
朝鮮の契	朝鮮總督府	大正十五年十月	一四五〇		二二二
特殊部落史	南橋貞樹	大正十五年八月	一四五〇		二二八
東西女性發達史	池田林儀	大正十五年五月	一四五〇		二二九
日本國體闡明史	伊藤千眞三	大正十五年五月	一四五〇		二二三
農業金融	牧野輝智	大正十五年七月	一四五〇		二二五

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
農村副業問題	小林權一	大正十五年十月	一四五〇		二〇五
産業組合問題	志村源太郎	大正十五年七月	一四五〇		二〇五
米穀問題	上山滿之進		一四五〇		二〇五
社會問題講座 三、四、五、六卷	大宅壯一	大正十五年八月	三四五二		一一二
同 七、八、九卷	同	大正十五年二月	三四五二		一一二
社會問題綱要	河田嗣郎	大正十五年七月	一四五二		二一六
勞資解放論	榎本卯平	大正十五年六月	一四五二		二一五
如何にして一身の方向を定む可きか	米、マーテン、上谷 續譯	大正十五年二月	一四五四		四八
活くる道	西川光二郎	大正十四年七月	一四五四		六二
教育と職業智識	ユイゴ、ミンス、テルベルヒ、山田 作造譯	大正十三年七月	一四五四		四九
現代青年の眞生活	田子一民	大正十五年八月	一四五四		五〇
自然順應の生活	二瓶 一久	同	一四五四		六一
新賃生活法	額田 豊	大正十五年四月	一四五四		四七
朝鮮の服裝	朝鮮總督府	昭和二年三月	一四六〇		二二
自明治三十三年 卸賣物價	商工大臣官房	統計	大正十五年三月	一四七一	七六

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
大正十四年度簡易保險局統計表	簡易保險局	昭和二年一月	一四七		二九
大正十四年度國勢調査結果報告	樺太廳	昭和二年一月	一四七		七五
時事年鑑	時事新報社	大正十五年九月	一四七		六五
第一區府縣立全生病院年報	同上	昭和二年三月	一四七		二六
土木局第三回統計年報	内務省 土木局	昭和元年三月	一四七		六四
大正十四年農事統計表	農林大臣官房統計課	大正十五年十月	一四七		七二
北海道及樺太經濟統計要覽			一四七		七二
大正十六年 每日年鑑	大阪毎日新聞社	大正十五年十月	一四七		一六

### 第五 數學、理學、醫學

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
最新代數幾何の鍵	北村春吉	大正十五年十月	一五〇		三三
簡易に覺る、算術の解法と趣意	田尻耕二	大正十四年十月	一五一		四八
算術講座	誤り易き重 要問題	山崎猛一	大正十四年十月	一五一	四七
算術の要點と解法	東京數學研會	大正十五年四月	一五一		四九
學習最新代數學精義上下	岩切晴二	大正十五年十月	二五二		四二
代數の解釋	南部美章	大正十五年九月	一五二		四〇
模範代數學問題集	廣瀬正雄	大正十五年十月	一五二		四二
代數學精義	杉浦鶴次郎	大正十五年九月	一五二		四三
代數學精義	山崎猛男	大正十五年六月	一五二		三七
自學自習代數學重要問題	本多吉雄	大正十四年七月	一五三		三三
試驗參考の解き方	佐久間謙	大正十五年六月	一五三		三九
代數學問題の正しき解き方	佐久間謙	大正十五年六月	一五三		三九
方程式	數學叢書 第五編 林鶴枝元治	大正十五年六月	一五三		三八
學び易し 幾何學の先生	吉山守明	大正十四年十月	一五三		二九
試驗に於ける 幾何學	佐久間謙	大正十五年七月	一五三		三二
わかり易くした 用器畫法詳解	富岡伊三郎	大正十四年六月	一五三		三〇
三角法學び方考へ方と解き方	藤森真藏	大正十四年八月	一五四		三八
增訂改版 科學史概論	福山茂三郎	大正十五年二月	一五〇		二六
科學讀本 自然の研究	石井重美	大正十五年五月	一五〇		九七
科學大系	第一、第二、第三、 第四、第八卷 トムソン、北川 三郎、外一名譯	大正十五年三月	五五〇		五一

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
同	津崎滿治	大正十五年八月	三五〇		五一
雲を掴む話	小倉謙三	大正十五年三月	一五〇		九九
燃料食料	藤原咲平	大正十五年三月	一五〇		九九
物理化學の進歩	吉田弘	大正十五年六月	一五〇		七九
物理化學の基礎的諸問題	堀場信吉	大正十五年十月	一五〇		一〇一
文化人の科學	石原純	大正十五年四月	一五〇		一〇〇
顯微鏡實驗法	四澤勇志智	大正十五年一月	一五〇		九六
物理計算問題解法の要領	高原伊勢次郎	大正十四年六月	一五二		七二
物理學目由	吉木利光	大正十五年六月	一五二		七〇
物理實驗三十題	内藤卯三郎	大正十五年十月	一五二		七二
自然科學綱要	柏木好三郎	大正十五年二月	一五二		六九
化學計算問題	一瀬雷信	大正十五年一月	一五三		七二
最新化學の要領	關野幹次郎	大正十五年二月	一五三		七三
教材解説と問題解答を分	清野柳吉	大正十五年九月	一五三		七三
主としたる化學講義	清水勇	大正十五年三月	一五三		七〇
最も正しき化學問題詳解説	田忠順	大正十四年七月	一五三		六九

書名	著者名	発行年月	冊数	類目	番號
雲の見た方	國際雲級圖解說 三宅武雄	大正十五年九月	一五三		七〇
大陽黒點	關口鯉吉	大正十五年二月	一五三		七二
大正十六年曆	東京天文臺	大正十五年	一五三		三三
櫻島噴火記	鹿兒島縣立圖書館	大正十四年七月	一五四		六八
大正震災誌 上下	内務省 社會局	大正十五年六月	二五四		七〇
同 附圖			一五四		七〇
北但震災誌	兵庫縣	大正十五年三月	一五四		七一
科學 我等の大地	渡邊萬次郎	大正十五年七月	一五四		六九
受驗 參考動物學	秋山運三	大正十四年八月	一五五		七二
受驗 參考植物學		大正十五年一月	一五五		七〇
植物圖譜		大正十四年六月	一五六		七一
臺灣植物圖說	伊藤武夫	昭和二年二月	一五六		七三
花の傳説	武井武雄	大正十五年三月	一五六		六九
應用優生學と妊娠調節	池田林儀	大正十五年九月	二五七		八四
考古學講座	長坂金雄	大正十五年十月	七五八		四九

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
史蹟名勝天然紀念物報告 第四號	長崎縣史蹟名勝天然紀念物調査委員會	大正十五年三月	一五八	四三
人文地理學概論	ハンチンケトン 伏見 義夫譯	大正十五年八月	一五六	四六
人類學上より見たる西南支那	鳥居 龍藏 同		一五八	四七
日本原始工藝	東京工業美術研究會	大正十四年四月	一五八	四八
日本原人の研究	清野 謙次	大正十四年四月	一五八	四五
文化移動論	西村 眞次	大正十五年五月	一五八	四四
鹿兒島縣温泉誌	鹿兒島醫務部衛生課		一五九	一八
最近之診療全書	高崎 雅雄	大正十四年十月	一五〇	六二
最近之臨牀講義全書	同		一五〇	六三
趣味の醫學	豐島 豐次郎	大正十五年六月	一五〇	六四
大正十四年統計年報	第一區府縣立全生病院	大正十五年七月	一五〇	三三
陳修園四十八種醫書	關長樂 修園先生		四八五〇	五五
神農本草經論				
醫學三字經				
金匱要略義				

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
醫學實在易				
醫學從衆錄				
時方妙用				
金匱方歌括				
傷寒論淺註				
傷寒醫訣串解	局方發揮、醫法心傳古			
傷寒醫訣串解	今醫論、考正穴法、疹刺捷法			
傷寒醫訣串解	春音三字訣、痲症三字訣、溫熱條辨、溫熱贅言			
傷寒醫訣串解	達生編、婦科新症引痘、時疫速良法、太乙神鍼、福幼編			
傷寒醫訣串解	十藥神書註解、急救奇方、霍亂、轉筋			
傷寒醫訣串解	秘本眼科捷徑、傷寒舌鑑、咽喉證通論、白喉治法、扶靈急救喉疹要法、痧喉正的			
傷寒醫訣串解	長沙市歌括			

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
靈樞素問集注				
女科要旨	本草經百種錄、合物秘書、平辨法歌訣、本經便讀、名醫別錄			
靈素節要淺註				
時方妙用歌括、新方八陣秘				
別冊集 第一	齋藤報恩會		一五〇	五〇
四季の小兒病	長 尾 美 知	大正十五年十月	一五六	一七
實驗 禁酒禁煙法	富士川 春也	大正十五年九月	一五七	一六〇
結婚の危機	小 田 俊 三	大正十五年五月	一五七	一五七
食物化學講話	澤 村 眞	大正十五年十月	一五七	一六三
家庭に於ける實際的看護の秘訣	藥 田 多 吉	大正十五年四月	一五七	一五六
起死 先哲の實驗せる	大 村 寛 二	大正十五年七月	一五七	一六三
同生 八大健康法	小 酒 井 不 木		一五七	一五九
關病術				
皮膚と毛髮の新しい衛生	岡 村 龍 彦	大正十五年九月	一五七	一六一
家庭に於ける看護の智識	吉 岡 彌 生	大正十四年十月	一五六	四八

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
白隠と夜船閑話	野 村 瑞 城	大正十五年六月	一五六	四七
第六門 門工學、工藝、兵事				
科學的管理法綱要	國 松 豊	大正十五年二月	一六〇	四一
明治專門學校學報三卷	明治專門學校		一六〇	四二
橫濱市商工業者名鑑	橫濱市 商工課	昭和二年二月	一六〇	四三
砂防工大意	井 上 清 太 郎		一六一	一五
大正十四年度 直轄工事年報	内務省 土木課	昭和二年二月	一六一	一六
同附圖面	同		一六一	一六
土木試驗所報 第五號	内務省土木試驗所		一六一	一四
住宅建築の手引	榎 本 淳 一	大正十五年六月	一六二	四八
支那北京城建築	小林 音次郎編	大正十五年二月	一六三	四六
平易なる自動車學	山 田 忍 三	大正十五年五月	一六三	七五
電氣讀本 第十萬國測地學協會總三回會報告書	寶來勇次郎	大正十五年四月	一六四	九二
電氣讀本 第十萬國測地學協會總三回會報告書			一六六	六

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
陸地測量部要覽	陸地測量部	大正十五年十月	一六六	七
大阪工業試験所報告	大阪工業試験所	第七回自十一號至十八號合本	一六〇	五
同	同	第七回五、七、九號一號合本	一六〇	五
農村工藝の奨励實際	高橋榮五郎	大正十五年七月	一六〇	二
セメント代用土と其用法	曾我 奎祐	大正十五年八月	一六〇	二〇
發明奨励展覽會報告	牧野榮次郎	昭和元年十二月	一六〇	三
絹業試験所報告	絹業試験所	第三卷第二號	一六三	八三
朝鮮の窯業	朝鮮總督府	大正十五年七月	一六三	八五
陶磁器試験所報告	陶磁器 試験所	第四號	一六三	七五
皇國の興廢この一戦にありと言ふ信號旗			六三三	二九
刀劍全書	清水 櫛村	大正十五年十月	一六三	二

**第七門 産業、商業、交通及通信**

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
穀物検査事業要覽	農林省 農務局	大正十五年十月	一七〇	一〇一
豆類要覽	農務局	第五十二號	一七〇	一〇二
麥其他穀物要覽	農務局	第五十三號	一七〇	一〇三
農業用小形發動機比較審査成績	同	大正十五年九月	一七二	四
同小形ポンプ比較審査成績	同	昭和二年三月	一七二	五
新しいバラの作り方	石井 勇義	大正十五年五月	一七二	七三
右第 美はしい花壇の造り方	同		一七二	七三
園藝講座	鈴木 清	大正十五年三月	一七二	七五
果樹栽培全書	福羽 逸人	明治四三年九月	一七二	二
耕地擴張改良事業要覽	農林省 農務局	昭和二年二月	一七二	六九
蔬菜の温室園藝	久野 正明	大正十五年九月	一七二	六
草花露地園藝	鈴木 清	大正十五年三月	一七二	七四
圖解庭造法	本多 錦吉郎	大正十五年四月	一七二	七
通俗園藝講話	恩田 鐵彌	大正十五年七月	一七二	七
蘋果、柿、葡萄	農林大臣官房	大正十五年八月	一七三	一九
統計表	統計	大正十五年八月	一七三	一九

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
同	同	昭和二年三月	一七三	一九
樺太臨時森林作業寫真帖	樺太臨時森林 作業所	大正十五年十月	一七三	三
樺太森林統計	樺太 廳	大正十五年八月	一七三	二九
林業試験場報告	林業試験場	第二七號	一七三	二
林業試験場概要	同	昭和二年三月	一七三	二
うぐいす	小鳥の飼ひ方 叢書五編	今村久兵衛	大正十五年五月	一七三
家畜の飼料と増訂ひかた	石塚 欽平	大正十四年十月	一七三	三四
金魚とその他の飼ひ方	白木 正光	大正十五年七月	一七三	三五
食用蛙飼育法	秋山吉五郎	大正十五年五月	一七三	三五
多産鶏の飼ひ方	野々垣淳一	大正十五年五月	一七三	三七
養鶏の實地研究	主婦之友社	大正十五年五月	一七三	三七
養鶏及家禽飼養法	小杉 方也	大正十五年五月	一七三	三六
大正十四年度 遞信統計要覽	相田 真太郎	大正十五年三月	一七三	三三
南洋之水産	農商務省水産局	大正十五年八月	一七五〇	四
華日人名錄	華日協會	大正十五年八月	一七五〇	四

著者名	発行年月	冊数	類目	番號
商學研究	東京商科大学	第六卷第一號	一七五〇	一〇六
世界商業史	上原 好咲	大正十五年七月	一七五〇	一四七
經營ワナメロカ寶典	ワナメロカ 秘訣 井關十郎		一七五〇	四九
水産講習所試験報告	水産講習所	合本第二、三、四、五、六册	一七五一	一五
商品の智識	須原 伊豫	大正十五年二月	一七五二	四九
高等金利計算書	小幡 孫二		一七五五	九
三井銀行五十年史	小林 忠太郎	大正十五年九月	一七五六	二
特許局第九次統計年表	許 局	大正十五年八月	一七五七	一六
研究館年報	長崎高等商業學校 研究館	第七年第一册	一七六〇	一〇二
商業と經濟	伊藤 久	昭和二年三月	一七六〇	一〇二
管内概況	門司鐵道局 運輸事務所	大正十五年十月	一七六一	四
大正十四年度 鐵道省年報	鐵道 省	昭和二年一月	一七六一	四一
大正十四年度 鐵道省鐵道統計資料	同	大正十五年七月	一七六一	四三
鐵道讀本	石井 滿		一七六一	四三



著者名	發行年月	冊數	類目	番號
大正十五年三 月末日現在	日本全國鐵 道	一七二	鐵道	三九
大正十 四年度	日本全國鐵道線 路圖	一七二	鐵道	四〇
日本燈臺表	大正十五年五月 燈臺局	一七一	鐵道	三六
運送取扱人公制度と合 同問題	鐵道省	一七六	鐵道	三三
鹽乾魚海藻類ニ關スル 調査	大正十五年九月	一七三	鐵道	二九
活鮮魚、鮮魚關スル調査同	同	一七三	鐵道	二九
大正十 五年中	國有鐵道貨物運 輸概況	昭和二 年三月	鐵道	一七三
大正十 三年度	鐵道省鐵道統計 資料	一七三	鐵道	二〇
東支鐵道貨物輸送統計 (一九二四年度)	南滿洲鐵道株式 會社	大正十五 年二月	鐵道	一七三
藥製品墨表類ニ關スル 調査	鐵道省	一七三	鐵道	二九

第八門 美術、家事、諸藝及遊技、武術

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
繪畫鑑賞の心理	松本亦太郎	大正十五年十月	美術	一八〇
帝室博物館圖錄	東京帝室博物館	大正十五年九月	美術	一八〇
油繪の牛ほごき	權井弘三	大正十五年十月	美術	一八一
浮世繪十八考	續田一磨	大正十五年七月	美術	二八二
王木畫錢泳題 (拓本)	藤岡作太郎	大正十五年十月	美術	一八一
近世繪畫史	藤岡作太郎	大正十五年十月	美術	一八一
漁樂圖卷	岸田劉生	大正十五年五月	美術	一八一
郭忠恕文徵明題 (拓本)	永見德太郎	大正十五年七月	美術	一八一
史忠書沈岱史 (同)	永見德太郎	大正十五年九月	美術	一八一
輸入 初期肉筆浮世繪	永見德太郎	大正十五年七月	美術	一八一
續長崎版畫集	永見德太郎	大正十五年九月	美術	一八一
東波畫併題 (拓本)	蘇東波	大正十五年九月	美術	一八一
董其昌畫自贊 (拓本)	蘇東波	大正十五年九月	美術	一八一
長崎版畫集	永見德太郎	大正十五年九月	美術	一八一
文晁 (アルス美術叢書)	萬藏五郎	同	美術	一八一

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
米仁友墨戲米布 (拓本)	長澤小輔	一八一	美術	一九三
墨筆山水畫卷	長澤小輔	一八一	美術	一九五
本朝名畫鑑 自七輯 至十九輯	長澤小輔	一八一	美術	一九九
飲中八家仙 (拓本)	王羲之	一八二	美術	一九九
王羲之書 (同)	王羲之	一八二	美術	一九九
小野道風真蹟唐白居易 詩	王羲之	一八二	美術	一九九
王羲之 (拓本)	王羲之	一八二	美術	一九九
客座私祝 (同)	其昌書	一八二	美術	一九九
其昌書 (同)	其昌書	一八二	美術	一九九
枝山書 拓本	其昌書	一八二	美術	一九九
畫記 (眉山蘇軾書)	其昌書	一八二	美術	一九九
刑部尙書顏真卿書 (同)	其昌書	一八二	美術	一九九
再和揚公濟梅花十絕	其昌書	一八二	美術	一九九
州石刻小字 (拓本)	其昌書	一八二	美術	一九九
集古浪華帖 第一、二	嵯峨天皇御筆	一八二	美術	一九九

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
書道沿革一覽 上下	比田井 鴻	大正十五年八月	美術	二八三
瑞圖書 (拓本)	比田井 鴻	大正十五年八月	美術	二八三
赤壁武	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
蘇東波 (拓本)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
大唐西京千福寺多 寶佛塔感應碑文 (拓本)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
陳言傳書 (同)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
趙子昂 (同)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
趙子昂書 (拓本)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
杜甫書 (同)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
董其昌 (同)	蘇東波	大正十五年九月	美術	二八三
南洲先生遺墨集	青山會館	大正十五年十二月	美術	一八二
鳴鶴先部楷法字彙 自首卷至六卷	比田井 鴻	大正十四年六月	美術	六八三
李白書 (拓本)	比田井 鴻	大正十四年六月	美術	六八三
佛像新集 (乾坤)	權井弘三	大正十五年十月	美術	一八一
印度佛跡實寫	高楠順次郎	大正十五年八月	美術	一八四

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
大正震災寫真帖	內務省 社會局	大正十五年六月	一八四	八〇
萬二千峰 朝鮮金剛山	滿鐵京城鐵道局		一八四	七九
滿蒙印畫 第一、二、三、四、五卷	櫻井一耶		一八四	七三
同 (五)	天津幸一		一八四	七三
同 (六)	亞東印 畫協會	大正十五年五月	一八四	七三
支那料理の見方	井上紅梅	昭和二年五月	一八三	六六
編物講習録 第五輯	寺西 綠子	大正十五年九月	二八三	四二
同 第一、二輯	同	大正十五年七月	二八三	四二
家庭回す物尺いらす型紙から	坂井光子	大正十五年十月	一八三	四三
自在裁縫の 初歩より	結城親學	大正十五年三月	一八三	四二
新胎教	下澤 瑞世	大正十五年八月	一八三	五二
近世邦樂年表	東京音樂學校	昭和二年一月	一八三	四四
世音樂家物語	服部龍太郎	大正十五年九月	一八三	四一
由來 附說 世界國家集	山本 壽	大正十五年七月	一八三	四三
日本音樂講話	田邊 尚雄	大正十五年十二月	一八三	四三

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
日本音樂の研究	田巴 尚雄	大正十五年二月	一八三	四〇
謠と能	明治三三年八月	一八三	三五	三六
科學文 演劇と文學	小山内 蕭	大正十五年四月	一八三	三五
芝居ばなし	三田村 鷹魚	大正十五年七月	一八三	三七
池坊流花道指南	春島軒 秋風	大正十四年	一八三	三六
盛花と投入の生け方	主婦之友社	大正十五年七月	一八三	三九
律動をさなごのうた	萩原美一	作曲 大正十三年九月	一八四	二五
野球の見方と用語の解説	久保田 禎	大正十五年八月	一八三	二一
水泳競技	高久 清一	大正十五年六月	一八三	二二
心身 劍道集義	杉本 傳	大正十五年六月	一八三	二二
心身 續劍道集義	山田次郎吉	大正十三年三月	一八四〇	六
日本劍道史	同	大正十四年五月	一八四一	二一

第九門 事彙、叢書、隨筆、書目、雜書、新聞、雜誌

著者名	發行年月	冊數	類目	番號	
增訂 明治事物起原	石井 研堂	大正十五年十月	一九〇	三五	
カイサーリンクの日本	下山謙吉	大正十五年七月	一九〇	三九	
中外文化協會定期 金の將來	クルト、ヘルマ	著、安倍浩譯	大正十五年七月	一九〇	
現世訓	伊、ベネゲット、	クロウ、ア	薄田 新雪譯	昭和二年一月	一九〇
契沖全集 第三卷	新村出	外四名	一九〇	七九	
契沖全集 第四卷	佐々木 信綱	大正十五年十月	二九〇	七九	
契沖全集 第五卷註釋書上	アルフレッド、ア	イ、ヤカント著	安倍 浩譯	大正十五年七月	一九〇
中外文化協會定期 現代の國家及び社會	中島 半次郎	大正十五年十月	一九〇	八三	
公民教育要領	日田郡 教育會	昭和二年一月	一九〇	八〇	
淡窓全集 下卷	同	大正十五年一月	一九〇	八〇	
同 中卷	同	大正十五年一月	一九〇	八〇	
物價定安論	文明協會	大正十五年十月	一九〇	三九	
波斯より土耳其古まで	同	大正十五年八月	一九〇	八三	

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
帆足萬里先生全集 上下	帆足紀念圖書館	大正十五年六月	二九〇	八六
增補 本居宣長全集 第一	本居清造校訂	大正十五年六月	二九〇	八五
同 第五	本居 豐 顯	大正十五年七月	一九〇	八五
同 第六、第八	本居清造校訂	大正十五年七月	二九〇	八五
鐵櫻隨筆	小笠原長生	大正十五年八月	一九〇	六四
東西話行	鈴木文史	同	一九〇	六三
ひさご集	中野いさ子	大正十五年十月	一九〇	六二
大正十五年 大谷大學圖書館	大谷大學圖書館	大正十五年九月	一九四〇	九七
和漢圖書分類目録	大阪府立圖書館	大正十五年五月	一九四〇	二七
大阪府立圖書館增加和漢圖書目録	靜岡縣立葵文庫	大正十五年十月	一九四〇	九六
靜岡縣立葵文庫 和漢圖書目録	自大正十四年七月	增加圖書	至大正十五年六月	增加圖書
目録增加 第一	鐵道省 圖書館	大正十五年十月	一九四〇	九六
熊本圖 增加和漢圖書分類目録 第一冊	熊本縣立圖書館	昭和二年五月	一九四〇	一四

著者名	發行年月	冊數	類目	番號
增加帝室和漢圖書目錄	宮内省圖書寮	大正十五年七月	一九四〇	九五
圖書館書籍標準目錄	文部省	大正十五年八月	一九四〇	一六
同	同	(大正十四年後期分)	一九四〇	一六
同	同	(大正十五年前期分)	一九四〇	一六
增加圖書解題(あ、わ)	佐村八郎	大正十五年十月	一九四〇	九九
ペートヴェン百年紀念圖書陳列目錄	南奏音樂圖書館		一九四〇	一〇〇

大正十五年八月 福岡縣立圖書館 大止十五年八月 一九四〇 三七  
和漢圖書分類目錄

南滿洲鐵道株式會社各個所備 南滿鐵道大連圖書館 昭和元年七月 一九四〇 一〇一  
付定期刊行物綜合目錄

事業年報 第二 財團法人齊藤報恩會學術研究總務部 大止十五年十月 一九五〇 一〇二

第一萬二千號紀念 青森縣大觀 東興日報社 大正十五年三月 一九六〇 一〇三

新聞そのをりをり 太田正孝 大正十五年六月 一九六〇 一〇五

新法令 付第五二回 帝國議會史 長谷川誠也 昭和二年五月 一九七〇 一〇三

地理 日本兵制史 日本歷史學會 大正十五年三月 一九七〇 一〇五

受贈圖書ノ部

○大谷大學圖書館寄贈△大谷大學圖書館和漢書分類目錄索引、大谷大學圖書館著一冊 ○農林省農務局寄贈△穀物檢查事業要覽第三號、農林省農務局著一冊△穀物火力乾燥裝置ノ概要、農林省農務局著一冊△麥其ノ他穀物要覽、農林省農務局著一冊△昭和元年度農業用小型ポンプ比較審査成績、農林省農務局著一冊○齊藤報恩會學術研究總務部寄贈△刷集第一、齊藤報恩會學術研究總務部著一冊、△Annual report of the work No.1. 1vol. △Monographs reprintseries No.1 1 vol. △事業年報第二、齊藤報恩會學術研究總務部著一冊 ○巨智部忠承氏寄贈△Anuario del instituts geografico militar 1912, 1vol. △Anuario del instituto geografico militar, 1613, 1vol. △Anuario del instituto geografico militar, 1914 1vol. △Hovedtingerne I den statistiske geodesi, 1921, 1vol. △Geological department, 1vol. △Kommission for die internationale Erdmessung, 1911, 1vol. △Bawie, William, Effect of tophographyand isostatic compensation upon the intensity of gravity. (second paper.) 1912, 1vol. △Commission geodesique suisse, 1918, 5vol. △Militargeographischen Institutes 1912-13 2vol. △Merial, Frederick J. H. ph. D. New York state museum, 1vol. △Tassage-Panopticum, 1vol. △Guide des musses mineralogiqu et geologique, 1897, 1vol. △Führer durch des Roemer-Museum in Haldesheim. (allgemeine geologie) 1897, 1vol. △L'association geodesique international, 1913 1vol. 1897, 1vol. △Rapport sur les travaux du bureau Cen-

- tral de L'association geodesique internationale en 1914. 1vol. ▽Nye Basismaalinger I Danmark 1916. 1vol.
- ▽Résmés. 1912. 1vol. Vandstandsmalingen, Normalhøjdepunktet for Danmark, Sammenligning af proffsiskeog svenske Nivellementskeer med danske. M. M. 4 1912. 1vol.
- ▽Comparison of the Dutch platinum-iridium Metre No 27 with the international Metre M, as derived from the measurements by the Dutch Metre 1914, 2vol. ▽Bowie, William. The Texas-California arc of Primary Triangulation. 1912. 1vol. ▽Baldwin, A. L. The California-Washington arc of primary triangulation. 1913. 1vol.
- ▽Bowie, William. Fourth general adjustment of the precise level net in the United States and the resulting Standard elevations. 1914. 1vol. ▽Bowie, William. Precise leveling from Brigham, Utah, to San Francisco, California. 1914. 1vol. ▽Adams. Oscar S. Application of the theory of least squares to the Adjustment of triangulation. 1915. 1vol. ▽Mourhess, A. Challes. Triangulation along the Columbia river and the Coasts of Oregon and Northern California. 1915. 1vol. ▽Reynolds, F Walter. Triangulation in Alasama and Mississippi 1915. 1vol. ▽Baldwin, A. L. Triangulation in West Virginia, Ohio, Kentucky, Indiana, Illinois and Missouri. 1915. 1vol. ▽Ross, Frank E, ph, D. Latitude observations with Photographic Zenith tube at gainthersburg, Md. 1915. 1vol. ▽Bowie, William. Determination of time, longitude, and Azimuth. 1915. 1vol.
- ▽Japan.Base-measurement etc. 1vol. ▽Buchweldt, T. A. Katafe. Saeridens Regnelinje. 1211. 1vol.

- ▽Geodaetiske, Arbejder. 1912. 1vol. ▽Anaales de la Comision Geodesica Mexicana 1912. 1vol. ▽Catalogue du Musee. 1897. 1vol. ▽Return British Museum. 1vol. ▽第十三回萬國測地學協會總會報告書、測地學委員會編一冊 ○前田利爲氏寄贈△加賀松雲公上中下、近藤磐雄著三冊 ○高林兵衛氏寄贈△時計の話、高林兵衛著一冊 ○朝鮮總督府寄贈△朝鮮の契、朝鮮總督府著一冊△朝鮮の黨業、朝鮮總督府著一冊△朝鮮要覽昭和二年朝鮮總督府著一冊△朝鮮人の思想と性格、朝鮮總督府著一冊△朝鮮の服裝、朝鮮總督府著一冊△日鮮史話第三編松田甲述一冊 ○鹿兒島縣廳寄贈△日本帝國文部省第五十年報上下、文部大臣官房文書課編二冊 ○長崎高等商業學校寄贈△長崎高等商業學校一覽、長崎高等商業學校編一冊 ○第七高等學校造士館寄贈△第七高等學校造士館一覽、第七高等學校造士館編一冊 ○丸山豊太郎氏寄贈△三井銀行五十年史、小林忠太郎著一冊 ○水産講習所寄贈△水産講習所試驗報告、水産講習所編一冊△水産講習所一覽、農林省水産講習所編一冊△水産講習所試驗報告二十三卷第三冊、水産講習所編一冊△水産講習所試驗報告二十二卷第四冊、水産講習所編一冊△水産講習所試驗報告二十二卷第五冊、水産講習所編一冊△水産講習所試驗報告二十三卷第一冊、水産講習所編一冊
- 大阪工業試驗所寄贈△大阪工業試驗所報告第七回十一號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第七回十二號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第七回十三號大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第七回十四號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第七回十五號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第七回十六號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第七回十七號、大阪工業試驗所編一冊

△大阪工業試驗所報告第七回十八號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第八回一號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第八回二號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第八回三號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第八回四號、大阪工業試驗所編一冊△大阪工業試驗所報告第八回五號、大阪工業試驗所編一冊  
○日比谷圖書館寄贈△東京市立圖書館增加圖書目錄、日比谷圖書館編一冊△東京市立圖書館增加目錄68、日比谷圖書館編一冊△東京市立圖書館增加圖書目錄69日比谷圖書館編一冊△邦文參考書目錄(未定稿)、日比谷圖書館編一冊  
○燈臺局寄贈△日本燈臺表、燈臺局編一冊  
○第一區府縣立全生病院寄贈△大正十四年統計年報、第一府縣立全生病院編一冊  
○秋田鑛山專門學校寄贈△秋田鑛山專門學校編一冊△Journal of the Mining college, Akita Mining college. 1 vol.  
○宮城縣登米郡史刊行殘務委員半田卯内氏寄贈△登米郡史上下卷宮城縣登米郡役所編二冊  
○佐久間團長後藤文雄氏寄贈△鳥の都、橋本白水著一冊  
○長崎縣廳寄贈△全國盲學校及聾啞學校ニ關スル諸調査、文部省普通學校局編一冊△史蹟精査報告第一第二 內務省編二冊△朽木縣に於ける指定史蹟、內務省編一冊△天然紀念物調査報告 礦物ノ部、動物ノ部、植物ノ部、同 第一輯、第二輯、第三輯、第五輯、第六輯、內務省編七冊△大正十四年長崎縣勢要覽、長崎縣廳編一冊△大正十三年長崎縣統計書(第一編)長崎縣廳編一冊△大正十二年長崎縣統計書(第三編)長崎縣廳編一冊△高等諸學校一覽、文部省專門學務局編一冊△大正十四年全國公立中學校ニ關スル諸調査、文部省普通學務局編一冊△全國 高等女學校 實科高等女學校ニ關スル諸調査、文部省普通學務局編一冊△全國公立 中學校 高等女學校經費ニ關スル調

查、文部省普通學務局一冊△崎玉、茨城、群馬三縣下ニ於ケル指定史蹟、內務省編一冊△大正十五年四月二十日現在全國私立 中學校 高等女學校經費ニ關スル調査、文部省普通學務局編一冊△全國特殊教育狀況、文部省編一冊△圖書館書籍標準目錄、文部省編一冊△兒童就學獎勵概況、文部省編一冊、△攝政宮殿下、濱田豐城著一冊△開墾地移住狀況調査、農林省農務局編一冊△舊藩時代ノ耕地擴張改良事業ニ關スル調査、農林省農務局編一冊△大正十四年長崎縣統計書(第四編)、長崎縣廳編一冊△大正十四年長崎縣水產統計、長崎縣廳編一冊△大正十四年長崎縣統計書(教育)二編、長崎縣廳編一冊△大正十三年長崎縣統計書(產業)三編、長崎縣廳編一冊△大正十五年長崎縣米麥統計、長崎縣廳編一冊△米國職業指導概況 社會教育叢書 第十八輯、文部省普通學務局編一冊△獨逸青年ノ理想 社會教育叢書 第十七輯、文部省普通學務局編一冊△英國に於ける成人教育 社會教育叢書 第十六輯、文部省普通學務局編一冊△耕地擴張改良事業概要、農林省農務局編一冊△史蹟名勝天然記念物調查報告第五(有喜貝塚)、長崎史蹟名勝天然記念物調查委員會編一冊△土地改良事業基本調查地區一覽 第三回 第四回、朝鮮總督府編一冊△土地利用計畫一覽、農林省農務局編一冊  
○朝鮮總督府寄贈△朝鮮總督府施政年報十四年度、朝鮮總督府編一冊  
○農林省寄贈△大正十四年度農事統計表、農林大臣官房統計課編一冊  
○憲政會史編纂所寄贈△憲政會史、橫山勝太郎著一冊  
○鐵道省寄贈△大正十三年度鐵道統計資料、鐵道省著一冊△大正十三年度鐵道統計資料 各驛間旅客發着及通過一覽表 各驛間貨物發着及通過一覽表鐵道省編一冊△日本全國鐵道線路圖、鐵道省編一冊△同哩程一冊△大正十四年度鐵道省年報、鐵道省編一冊△大正十三年中鐵道輸送主要貨物數量、鐵道省運輸局編一冊  
○松浦伯爵家寄贈△樂歲堂圖書歐書目錄英蘭佛古書、松浦伯爵家編一冊  
○臺灣

總督府寄贈△大正十三年度臺灣總督府學事第二十三年報、臺灣總督府內務局文教課編一冊 ○坂本俊篤氏寄贈△平山流砲術家牧山忠平傳、橫山政吉郎著一冊 ○長崎高等商業學校寄贈△商業と經濟研究館年報、第七年第一冊、伊藤久秋著一冊  
 ○田中清一氏寄贈△詩集悲しき生存、田中清一著一冊 ○吉田岩平氏寄贈△印府と南洋、吉田岩平著一冊 ○武岡豐太氏寄贈△森田節齋の生涯、武岡豐太著一冊△明治維新第一の犠牲者 天恩組總裁松本在堂先生 晩年の事蹟、武岡豐太著一冊 ○東北帝國大學寄贈△東北帝國大學一覽、東北帝國大學編一冊 ○鳥取高等農業學校寄贈△鳥取高等農業學校一覽、鳥取高等農業學校編一冊 ○奈良女子高等師範學校寄贈△奈良女子高等師範學校第三臨時教員養成所一覽、奈良女子高等師範學校編一冊 ○林くに氏寄贈△朱川遺稿、林榮三著一冊 ○蜷川新氏寄贈△物部氏及宮道氏の裔、蜷川新著一冊△巴里講和會議と私の日記、蜷川新著一冊▽The facts about the formation of League of Nations societies.  
 Dr. Arata Ninagawa, 1 Vol. ○米原林藏氏寄贈△皇國の興廢此一戦にありてふ信號旗一枚△高島秋帆先生紀功碑建設報告一冊△男爵前田正名君略傳、牧泰生著一冊 ○名古屋市役所寄贈△第十一回名古屋市勸業要覽、名古屋市役所勸業課編一冊△大正十四年名古屋市貨物集散概況、名古屋市役所勸業課編一冊 ○日本郵船株式會社寄贈△死都ボンベを訪ふために、日本郵船株式會社編一冊 ○鈴木タミ氏寄贈△東洋日の出新聞明治三十五年自三月至十二月 △同明治三十六年一月至十二月 △同明治三十七年一月至十二月 △同明治三十八年一月至十二月 △同明治三十九年一月至十二月 △同明治四十年一月至十二月 △同明治四十一年一月至十二月 △同明治四十二年一月至十二月 △同明治四十三年一月至十二月 △同明治四十四年一月至十二月 △同明治四十五年一月至十二月 △同大正二年一月至十二月 △同大正三年一月至十二月 △同大正四年一月至十二月 △同大正五年一月至十二月 △同大正六年一月至十二月 △同大正七年一月至十二月 △同大正八年一月至十二月 △同大正九年一月至十二月 △同大正十年一月至十二月 △同大正十一年一月至十二月 △同大正十二年一月至十二月

二月△同大正十二年一月至十二月 △同大正十三年一月至十二月 鈴木力編各一冊 ○米澤高等工業學校寄贈△米澤高等工業學校一覽、米澤高等工業學校編一冊 ○東京外國語學校寄贈△東京外國語學校一覽附第十二臨時教員養成所一覽、東京外國語學校編一冊 ○元西彼杵郡長早水金二郎氏寄贈△西彼杵郡現勢一斑、西彼杵郡役所編一冊 ○南滿州鐵道株式會社寄贈△東支鐵道貨物輸送統計、南滿州鐵道株式會社編一冊△南滿州鐵道株式會社二十年略史、大連南滿州鐵道株式會社編一冊 ○前田侯爵家寄贈△加賀藩史自一至八 水山近彰著八冊△小野道風真蹟唐白居易詩附(備考一枚)一卷△楠正成與判文書附(備考一枚)一卷、○鹿兒島縣警察部寄贈△鹿兒島縣溫泉誌、鹿兒島縣警察部衛生課編一冊  
 ○本山彦一氏寄贈△十大先覺記者傳、太田原在文著一冊○四海社出版部寄贈△嗚呼大正天皇、杉謙二謹著一冊  
 ○陸地測量部寄贈△陸地測量部要覽、陸地測量部編一冊 ○東亞同文書院寄贈△支那研究第十二號、東亞同文書院支那研究部編一冊△支那研究第十三號、東亞同文書院支那研究部編一冊△支那研究第十四號、東亞同文書院支那研究部編一冊 ○東京商科大学寄贈△東京商科大学附屬圖書館カール、メンガー文庫目錄、東京商科大学編一冊△東京商科大学一覽、東京商科大学編一冊 ○絹業試驗所寄贈△絹業試驗所報告三卷二號、商工省絹業試驗所編一冊 ○東奧日報社寄贈△青森縣大觀、山田金次郎著一冊 ○野々垣淳一氏寄贈△實驗食用蛙飼養法、野々垣淳一著一冊  
 ○內務省社會局寄贈△大正震災志上下、內務省社會局編二冊△大正震災志寫真帖一冊△大正震災志附圖一冊  
 ▽ The great Earthquake of 1923 in Japan, The Bureau of Social affairs Home office Japan, 1 Vol. ▽ Companion maps and diagrams to the great Earthquake of 1923 in Japan, The Bureau of Social affairs Home office Japan, 1 Vol.

○朝鮮總督府鐵道局寄贈△大正十四年度年報、朝鮮總督府鐵道局編一冊△朝鮮の鐵道、朝鮮總督府鐵道局編一冊  
 ○長崎市役所寄贈△長崎市全圖一枚△長崎港勢要覽、長崎市役所編一冊○松本高等學校寄贈△松本高等學校一覽  
 松本高等學校編一冊○大阪府立圖書館寄贈△大阪府立圖書館增加和漢圖書目錄第十六冊、大阪府立圖書館編一冊  
 △大阪府立圖書館第二十三年報、大阪府立圖書館編一冊○Dr. F. Boudas, Archives internationales I vol. Dr. Laryngol  
 sic. I Vol. △Annales D' Hygiene. I Vol. ○龍山鐵道圖書館寄贈△萬二千峰朝鮮金剛山、滿鐵京城鐵道局營業課編  
 一冊 ○鳥栖運輸事務所長寄贈△管内概況、門司鐵道局鳥栖運輸事務所編一冊○鳥栖運輸事務所寄贈△大正十五  
 年七月一日現行鐵道旅客運賃算出表、鐵道省運輸局編二冊 ○荒木存志彦氏著贈△古鏡（交趾國鏡）、荒木宗太  
 郎妻家藏箱入一個△由緒書（金札和解）一卷 ○簡易保險局長寄贈△大正十四年度簡易保險局統計年報、簡易保  
 險局編一冊 ○大阪發協會寄贈△發明獎勵展覽會報告<sup>自第一回至第三回</sup> 牧野榮次郎編一冊○樺太廳寄贈△<sup>大正十四年十月一日現在</sup>  
 正十四年國勢調查結果報告、樺太廳編一冊△樺太廳治要覽、樺太廳編一冊△第十八回樺太廳治一班、樺太廳編一  
 冊 ○大槻茂雄氏寄贈△新撰洋學年表、大槻如電著一冊 ○田崎仁義氏寄贈△國民體育の方法として運動、田崎仁義著  
 一冊 ○緒方註次郎氏寄贈△緒方洪庵と足守、緒方註次郎著一冊△緒方系譜考、緒方富雄著一冊○宮崎縣廳寄贈  
 △宮崎縣史蹟調查第五輯、宮崎縣廳編一冊 ○日本郵船長崎支店寄贈△長久の支那、後藤朝太郎著一冊 ○六樹會  
 寄贈△岡野敬次郎傳、六樹會著一冊 ○武藤元信遺著刊行會寄贈△むかしのおもかげ、武藤元信著一冊 ○靜岡縣  
 立英文庫寄贈△靜岡縣立英文庫和漢圖書目錄、靜岡縣立英文庫編一冊 ○廣島高等工業學校寄贈△廣島高等工業

學校學術報告、廣島高等工業學校編一冊△廣島高等工業學校一覽、廣島高等工業學校編一冊△廣島高等工業學校  
 學術報告廣島高等工業學校編一冊 ○安田保善社寄贈△義は君臣情は父子、中村保樹著一冊△鐵道讀本、石井滿  
 著一冊 ○橫濱市役所寄贈△橫濱市工業者名鑑、橫濱市役所商工課編一冊 ○內閣拓植局寄贈△殖民地便覽、內閣  
 拓植局編一冊 ○內務省土木局寄贈△大日本帝國港灣統計、內務省土木局編一冊△大正十四年度直轄工事年報、  
 內務省土木局編一冊△同附錄圖面一冊△土木局第二十七回統計年報、內務省土木局編一冊 ○福助足袋株式會社  
 寄贈△朝見の勅語、辻村勝著一冊 ○日本興業銀行寄贈△第三十一回全國公債社債明細表一冊△本邦社債略史、  
 高平隆雄著一冊△第三十二回全國公債社債明細表、渡邊勝男編一冊 ○森三千代氏寄贈△龍女の眸、森三千代著  
 一冊 ○大阪高等工業學校寄贈△大阪高等工業學校一覽一冊△Classified Catalogue of Books in the Technologica  
 College Library with an index of Authers. Osaka Technological College. I Vol. ○遞信省寄贈△大正十四年度通信  
 統計要覽、遞信省編一冊 ○古川巳酉氏寄贈△大正十四年度樺太森林統計、樺太廳編一冊△第十七回樺太廳治一  
 班、同一冊△樺太要覽、同一冊△樺太沿革史、同一冊△樺太案内、同一冊△移住關係法規、一冊 ○姉崎正治氏  
 寄贈△Geographical names in the Records of Hohoiac Missions in Japan in the Seventeenth Century. Author M. Anes  
 ake. I vol. ○墨西哥總領事館寄贈△A inquiry on Mexico by a European. I vol. ○長崎稅務署寄贈△改正個人所  
 得稅二種資本利子稅要覽、熊本稅務監督局編二冊 ○鐵道省運輸局寄贈△大正十五年中國有鐵道貨物運輸概況、  
 鐵道省運輸局編一冊△運送取扱人公認制度と合同問題、鐵道省運輸局編一冊△Japan Lando. I Vol. △肥料ニ關ス

ル調査 ○神宮皇學館寄贈△神宮皇學館一覽、宇治山田神宮皇學館編一冊 ○市川萬幾氏寄贈△寬齋先生餘稿附  
 摘草、市河三陽著一冊○長崎高商研究館寄贈△商業と經濟第七年第二冊、內藤久秋著一冊○大阪時事新報社寄贈  
 △愛皇論、土屋元作著一冊 ○大阪工業試驗所寄贈△大阪工業試驗所報告第七回一冊○金光教本部寄贈△勅語謹  
 講、金光教本部編一冊 ○陶磁器試驗所寄贈△陶磁器試驗報告第五號一冊△同第五號附圖拾四枚 ○山口晴耕氏  
 寄贈△食卓を圍みて、山口晴耕著一冊○日米協會寄贈△Essays of the Japanese winness in Lincoln Essays Contest,  
 The America-Japan Society. 1 vol. ○貞本義保氏寄贈△今宮町志、貞本義保著一冊 ○古市公威氏寄贈△工學博  
 士辰野金吾傳、白鳥省吾著一冊 ○大阪市立高等商業學校寄贈△大阪市立高等商業學校一覽、大阪市立高等商業  
 學校編一冊 ○長崎縣內務部寄贈△耕地擴張改良事業要覽第二次、農林省農務局編一冊 ○農林大臣官房寄贈△  
 大正十五年簡統計表、農林大臣官房統計課編一冊 ○國際聯盟協會寄贈△學藝の國際協力、學藝協力委員會著一  
 冊 ○兵庫縣知事寄贈△北但震災誌一冊 ○社會局寄贈△第八回國際勞働總會報告書、社會局編一冊△第九回勞  
 働總會報告書、同一冊 ○商工大臣官房寄贈△明治三十三年乃至大正十四年卸賣物價統計表、商工大臣官房統計課編一冊 ○旅  
 順工科大学寄贈△旅順工科大学一覽、一冊 ○日本橋區役所寄贈△第四回日本橋區勢要覽、日本橋區役所編一冊  
 ○桐島像一氏寄贈△高陽山人、寺石正路著一冊 ○東京博物館寄贈△東京博物館一覽、一冊 ○榎山泰一氏寄贈  
 △梓雪句集、榎山泰一著一冊 ○貯金局寄贈△大正十四年中內國郵便振替貯金業務狀況、一冊△內國郵便局爲替  
 業務狀況、一冊△郵便貯金業務狀況、一冊△年金恩給業務狀況、一冊○東京工業試驗所寄贈△東京工業試驗所報

告第二十二回、一冊△同第七號、一冊 ○學習院長寄贈△Catalogue of European books in the Gakushuin Library

Y. 1 Vol. ○農林省農務局寄贈△豆類要覽、農林省農務局編一冊 ○神戸市立圖書館寄贈△神戸市立圖書館概覽

一冊 ○大連圖書館寄朝△定期刊行物綜合目錄、一冊 ○福岡縣立圖書館寄贈△福岡市案内、長田義彦著一冊

○東京音學校長寄贈△近代邦樂年表(義太夫節之部)、東京音學校編一冊○內務省土木試驗所寄贈△土木試  
 驗所報告五號(簡易補裝ニ關スル試驗報告)一冊△土木試驗所報告六號一冊 ○南葵音樂圖書館寄贈△ペイトブエン  
 圖書陳列目錄、一冊 ○大阪東洋學會寄贈△Grammatik der Nihun-sprache. 1 Vol. ○樺太廳臨時森林作業所寄

贈△樺太廳臨時森林作業所寫真帖、一冊 ○林業試驗場寄贈△林業試驗成績概要、一冊△林業試驗彙報二十二號  
 △林業試驗彙報二十七號 ○谷口恒二氏寄贈△「稅關」入門、長崎稅關編一冊△ハンブルグ港論、同一冊 ○熊本

縣立圖書館寄贈△熊本圖書館增加和漢圖書分類目錄、一冊 ○東亞研究會寄贈△支那料理の見方、磯部榮一著一  
 冊 ○朝鮮總督府寄贈△朝鮮の物産、朝鮮總督府編一冊△大正十四年朝鮮總督府統計年報、一冊 ○久保猪之吉

氏寄贈△九州帝國大學醫學部圖書目錄第一輯、一冊△九州帝國大學醫學部耳鼻咽喉科教室廿年史一冊△耳鼻咽喉科史料展覽會  
 目錄及解說、一冊 ○富山市立圖書館寄贈△富山市立圖書館和漢洋書分類目錄第七、一冊 ○宮崎市役所寄贈△

宮崎市商工人名錄、一冊 ○長崎稅關寄贈△長崎稅關貿易要覽(大正十五年昭和元年)一冊 ○山田吉太郎氏寄贈△Japoneries  
 D'Automne 1 Vol. △南蠻屏風、一冊(八葉)附、南蠻屏風の前に座して、永見徳太郎著一冊△岩倉公實記上中下

三冊 △A short description of the great and terrible martyrdoms. 1 vol. △The Japan Art Lovers Club Exhibition. 1



Vol. △History of Japan Murdock 1 Vol. △Pilgrims, Purchase, 1 vol. ○中村良之進氏寄贈△陸奥古碑集、中村良之進著一冊 ○灰紅社寄贈△歌集小夜曲、山科鴨著一冊 ○後藤正足氏寄贈△志岐神社誌、後藤正足著一冊 ○野田弘氏寄贈△既成政黨撲滅論、板倉勝憲著一冊 ○臺灣總督府圖書館寄贈△臺灣總督府圖書館增加和漢圖書分類目錄、一冊△臺灣總督府圖書館一覽、一冊 ○協調會寄贈△勞働者教育施設資料輯録、惣田太郎吉著一冊△全國工場礦山勞働者教育協議會記錄、同一冊 ○神戸高等工業學校寄贈△神戸高等工業學校一覽、一冊 ○蕉門珍書百種刊行會寄贈△熱田鍛冶物語、安井知之著一冊△柿表紙、同一冊 ○外務省寄贈△大正十五年十月一日現在海外各地在留本邦人職業別人口表、外務省通商局編一冊 ○長崎商業會議所寄贈△長崎商工名錄、長崎商業會議所編一冊 ○永山時英氏寄贈△切支丹史料集、永山時英著三冊△帆足萬里先生略傳、帆足紀念文庫編一冊 ○長崎商業會議所寄贈△長崎商工名錄、一冊 ○秀英舍寄贈△株式會社秀英舍創業五十年誌、秀英舍編一冊 ○佐賀圖書館寄贈△佐賀圖書館和漢圖書分類目錄、一冊 ○平田伯傳記編纂事務所寄贈△伯爵平田東助傳、加藤房藏著一冊 ○日露協會寄贈△日露協會報告第二十四號ソブエート聯邦の利權政策其他、關根齋一著一冊△同第二十五號ニージニイ、ノーズゴロト年市五個年の成績其他、同一冊△同第二十七號浦瀬オデッサ間定期航路の復活其他、同一冊 ○阪東宣雄氏寄贈△滿蒙經營論、小谷保太郎著一冊 ○新納恒壽氏寄贈△新約佛教聖具、佛教協會著一冊 ○外務省寄贈△外務省公表集第七輯一冊 ○東京工業試驗所寄贈△東京工業試驗所報告第二十二回、一冊△同六號一冊 ○島内八郎氏寄贈△怪奇探偵沈黙の快漢、水町京一郎譯一冊 ○廣瀬滿正氏寄贈△宰平遺蹟、廣瀬滿正著一冊 ○アルス寄贈

△日本兒童文庫日本童話集(中)、小川未明著一冊△同兒童劇集(上)、坪内逍遙著一冊△同アンデルセン童話集、鈴木三重吉著一冊△同日本お伽噺集、巖谷小波著一冊△日本新童話集、北原白秋著一冊△日本童話集(上)島崎藤村著一冊 ○櫻蓋會寄贈△英國皇太子殿下歡迎學生大會紀、櫻蓋會編一冊 ○文部省寄贈△高等諸學校一覽、文部省專門學務局編一冊△地方教育財政一斑、文部省普通學務局編一冊 ○長崎醫科大學寄贈△長崎醫科大學一覽一冊 ○齋藤報恩會寄贈△東北地方市町村別人口密度表及同密度圖說、財團法人齋藤報恩會學術研究總務部編一冊 △The Saito Gyit-tude Foundation Monographs. 1 Vol. ○龜井高孝氏寄贈△天草本平家物語、龜井高孝著一冊 ○石井泰助氏寄贈△川崎誌考、山田藏太郎著一冊 ○京都帝國大學寄贈△京都帝國大學一覽自大正十五年一冊 ○市立名古屋圖書館寄贈△市立名古屋圖書館第五回講演集(世界に於ける最古の日本文典)、樋口千代松著一冊 ○姉崎正治氏寄贈 △The fate of some of the Leading Kirishitians who signed the Barberini Documents of 1620-21, Masaharu Aensaki. 1 vol. ○岐阜高等農林學校寄贈△各務研究報告第一號一冊 ○北海道帝國大學寄贈△創立五十年紀念 北海道帝國大學沿革史、北海道帝國大學編一冊 ○長崎縣立農事試驗場寄贈△大正十四年度業務功程報告一冊 ○海軍兵學校寄贈△海軍兵學校和漢圖書分類目錄一冊 ○鐵道大臣官房寄贈△大正十二年鐵道震害調查書、鐵道大臣官房研究所編一冊 ○震災豫防評議會寄贈△震災豫防調查會報告百號(丙)上下二冊△同百號(丁)一冊 ○外務省亞細亞局寄贈△支那在留本邦人及外國人々口統計表(第十九回)一冊 ○東京市役所寄贈△日傭勞働者の疾病傷害に關する調査一冊 ○復興局倉庫課寄贈△臨時物資供給事業誌、復興局經理課編一冊 ○名古屋鐵道局寄贈△愛知縣に於ける鶏と卵

名古屋鐵道局編一冊 ○吉田真一氏寄贈△日暮硯、土屋元作著一冊 ○朝鮮鐵道圖書館寄贈△朝鮮之風光、朝鮮總督府鐵道局編一冊△Official Record of the Newzealand and South seas International Exhibition G. E. Thompson, 1 vol. △The motor Trade Dictionary of Australia. Associated Trade Journals Co. 1 Vol. ○内務省土木試驗所寄贈△土木試驗所報告、一冊 ○矢野恒太氏寄贈△二年日本國勢圖會、矢野恒太著一冊 ○關西速記協會神戸支部寄贈△和英速記術、牧泰生著一冊 ○農林省農事試驗場寄贈△農事試驗場報告自四六號至四八號 ○石川縣立圖書館寄贈△石川縣立圖書館點字圖書目錄一冊 ○姫路高等學校寄贈△姫路高等學校一覽第四年度 ○鹿兒島縣廳寄贈△櫻島大正噴火誌、一冊 ○九州醫學會寄贈△第三十回九州醫學會々誌、一冊 ○花井卓藏氏寄贈△訟庭論草、花井卓藏著一冊 ○釜山府寄贈△釜山教育五十年史、釜山教育會編一冊○小林庸平氏寄贈△やしなひぐさ、小林庸平著一冊 ○帝室博物館寄贈△帝室博物館年報、一冊 ○波蘭公使館寄贈△La pologne Economique en 1926, Stefan Starzynske, 1 Vol. △Bulletin statistique Du Ministere Des Finances, No. 1-3. 1 Vol. ○大谷大學寄贈△大谷大學要覽、一冊 ○長崎縣廳寄贈△圖書館書籍標準目錄、文部省編一冊 ○米内山震作氏寄贈△試驗を通るまで(高文應試夜話)、米内山震作著一冊 ○奈良女子高等師範學校寄贈△奈良女子高等師範學校第三臨時教員養成所一覽、一冊 ○中央融和事業協會寄贈△融和事業年鑑、中央融和事業協會編一冊 ○安宅彌吉氏寄贈△錢屋五兵衛、鏑木勢岐著一冊

受贈雜誌ノ部

○特許公報○特許發明々細書○實用新案公報○商標公報△特許局寄贈○海△大阪商船株式會社寄贈○大阪之工藝△大阪府工藝協會寄贈○朝鮮經濟雜誌△京城商業會議所寄贈○京都染織物見本市案内△京都染織物見本市寄贈○教育パンフレット△野村教育研究所寄贈○氣象要覽△中央氣象臺寄贈○報德△報德會寄贈○雜誌時報△雜誌普及協會寄贈○淺海利用研究會報△淺海利用研究會寄贈○嗜好△明治屋福岡支店寄贈○長崎縣農會報△長崎縣農會寄贈○市立圖書館と其事業△日比谷圖書館寄贈○ミユウズ△アポロン社寄贈○宮崎縣圖書館讀書週間報△宮崎縣立圖書館寄贈○臨狀醫學寫真圖譜△植松慶次郎寄贈○大阪商業會議所月報△大阪商業會議所寄贈○警鼓△警察協會長崎支部寄贈○黑白△黑白發行所寄贈○葵文庫と其事業△静岡縣立葵文庫寄贈○國際時報△外務省情報部寄贈○精神△精神社寄贈○主要貨物情報△鐵道省運輸局寄贈○大阪市立圖書館一覽△大阪市立清水谷圖書館寄贈○ソヴエート、ロシヤに於ける産業組合△日露協會寄贈○各國保險國營問題の經過と其實例概況及論議△生命保險協會寄贈○中央融和事業協會々報△中央融和事業協會寄贈○動力之節約△工場能率增進研究會寄贈○長崎教育△長崎縣教育會寄贈○兒童研究△日本兒童協會寄贈○國民精神涵養に關する參考圖書目錄△大阪市立清水谷圖書館寄贈○東洋建築材料商報△東洋建材商報社寄贈○朝鮮△朝鮮總督府寄贈○無線ノ研究△無線之研究社寄贈○カトリック△カトリックタイムス△公教青年會寄贈○美育△圖書教育獎勵會寄贈○郵券△林勇スタンプ商會寄贈○ジャバ

ンタイムス△ジャバンタイムス社寄贈○統計月報△臺灣總督府交通局鐵道部寄贈○乃木式△桐會寄贈○勞働時報  
 △社會局勞働部寄贈○朝鮮及滿洲△朝鮮及滿洲社寄贈○三田評論△三田評論發行所寄贈○同愛△同愛會寄贈○海  
 △近海郵船會社寄贈○讀書會雜誌△滿鐵讀書會寄贈○長崎表紙△長崎表紙發行所寄贈○石川縣立圖書館月報△石  
 川縣立圖書館寄贈○包裝荷造の研究△大阪包裝荷造協會寄贈○松山商業會議所月報△松山商業會議所寄贈○世界  
 の勞働△國際勞働局東京支局寄贈○謠曲新報△謠曲新報社寄贈○おちば△おちば社寄贈○德島縣立光慶圖書館第  
 九年報△德島縣立光慶圖書館寄贈○賃銀統計月報○卸賣物價統計月報△商工大臣官房寄贈○望の星△長崎カトリ  
 ック研究會寄贈○長崎經濟時報△長崎保全社寄贈○大村支部報△帝國在郷軍人會大村支部寄贈○燈光△渡邊恒治  
 寄贈○都山流樂報△中尾都山寄贈○勞力新聞△長崎三菱造船所寄贈○電氣學會雜誌△電氣學會寄贈○日本ラヂオ  
 組合聯合商報△日本ラヂオ組合聯合組合寄贈○同人△同人社寄贈○隣保事業と融和問題△中央融和事業協會寄贈  
 ○警醒時論△警醒時論社寄贈○聲△公教青年會寄贈○熊本縣圖書館協會々報△熊本縣立圖書館寄贈○蘇州△蘇州  
 社寄贈○人道△人道社寄贈○長崎稅關外國貿易月表△長崎稅關寄贈○木卯柳句抄三面子○柳亭種彦外二名追遠紀  
 念祭陳列目錄○江戸風俗年中行事展覽會目錄△日比谷圖書館寄贈○電氣學會雜誌○電氣評論○電氣之友○遞信協  
 會雜誌△蘆谷禎次郎寄贈○哲學雜誌△哲學會寄贈○哲學雜誌△岩波書店寄贈○婦人之友△婦人之友社寄贈○商士  
 △名古屋商業學校寄贈○富山藥學專門學校入學案內△富山藥學專門學校寄贈○郵便切手△郵便切手社寄贈○刷子  
 製造業と勞働事情△大阪地方職業紹介所事務局寄贈○講演會速記録△日露協會寄贈○博愛△日本赤十字社寄贈○

科學智識△科學智識普及會寄贈○文藝△文藝社寄贈○市立名古屋圖書館々報△市立名古屋圖書館寄贈○ツトリ  
 ト△ジャバンツトリリストビューロー寄贈○千葉教育△千葉縣圖書館寄贈○濟生△濟生會寄贈○教育△茗溪會寄贈  
 ○田尾榮一個人誌△田尾榮一寄贈○長崎商業會議所報△長崎商業會議所寄贈○基督教史料展覽會目錄△福音社矢  
 部良策寄贈○研究館彙報△長崎高商研究館寄贈○臺灣學事一覽△臺灣總督府文教局寄贈○奈良圖書館月報△奈良  
 圖書館寄贈○齋藤報恩會時報△齋藤報恩會寄贈○長崎教育△長崎縣教育會寄贈○無線之研究△無線之研究社寄贈  
 ○地上禮讚△三角貫思寄贈○奈良文化△奈良文化編輯部寄贈○校友會雜誌△佐世保商業學校寄贈○東京市政調查會  
 圖書室月報△東京市政調查會寄贈○人道△人道社寄贈○明治學院會報△明治學院寄贈○金鷄學院便覽△金鷄學院  
 寄贈○長崎稅關外國貿易月報△長崎稅關寄贈○電氣探鑛特別號△鑛業社寄贈○高知縣立圖書館報△高知縣立圖書  
 館寄贈○露の下草△露の下草社寄贈○塗科普及會々報△塗科普及會寄贈○創作△創作社寄贈○日本思想△無水庵  
 寄贈○博愛△日本赤十字社寄贈○植物研究雜誌△津村植物研究所寄贈○ユウモア△我妻榮吉寄贈○水鏡△水鏡  
 社寄贈○哲學會々員名簿△哲學會寄贈○世と人△世と人社寄贈○琵琶界△琵琶界社寄贈○青年と雄辯△大串村  
 青年團寄贈○上海時論△上海時論社寄贈○性能考査法の研究△高峰博寄贈○第一通信△第一通信社寄贈○福岡廣  
 告協會報△福岡廣告協會寄贈○語源研究△語源研究後援會寄贈○北光△秋田鐵山專門學校寄贈○長崎縣立瓊浦中  
 學校一覽△長崎縣立瓊浦中學校寄贈○修養界△修養社寄贈○林業試驗彙報△林業試驗場寄贈○東海通信△東海通  
 信社寄贈○九軒△浪花文人講社寄贈○動力之節約△工場能率增進研究會寄贈○心學道話△心學參前舍寄贈○辛夷

△辛夷社寄贈○鎌田共濟會雜誌△鎌田共濟會寄贈○心情△心情詩社寄贈○郵便貯金概観△貯金局寄贈○中央大學  
 々員名簿△中央大學々員會寄贈○勞働者諸君ニ△土曜會寄贈○旅人△旅人社寄贈○漫畫雜誌△漫畫雜誌社寄贈○  
 ソヴェートロシヤの鑛業△日露協會寄贈○フロラ△東京英語質疑應答會寄贈○東方△東方出版社寄贈○リーフ  
 レット小説△日曜日會寄贈○日本青年館事業△日本青年館寄贈○あなたの御榮達の爲めに△證券信託案内△不動  
 産業務の志をり△國際信託株式會社寄贈○世界之鶏種○養鶏と園藝△壽園寄贈○市立名古屋圖書館々報△市立名  
 古屋圖書館寄贈○都市問題記事總目錄△東京市政調查會月報△東京市政調查會寄贈○長崎市職業紹介所報△長崎  
 市職業紹介所寄贈○長崎の水産△長崎市水產會寄贈○異常兒研究雜誌△宮本書店寄贈○真正漁人△真正漁人俱樂  
 部寄贈○長崎の青年△長崎市聯合青年團寄贈○委任貸付圖書目錄△埼玉縣立圖書館寄贈○改正所得税乙種資本利  
 子税要覽△長崎稅務署寄贈○ひこばね△ひこばね社寄贈○工業要錄△工業要錄發行所寄贈○製紙職工及養蠶備貸  
 銀統計表△農林大臣官房寄贈○協和△滿鐵社員會寄贈○語源研究○語源研究後援會寄贈○農業の滿洲△農業の滿  
 洲社寄贈○融和問題に關する歴史的考察△我等の使命△中央融和事業協會寄贈○滿鐵社報附錄增加目錄△大連圖  
 書圖書館寄贈○長崎お伽俱樂部會誌△長崎お伽俱樂部寄贈○佐賀圖書館第十三年報△佐賀圖書館寄贈○名古屋市  
 に於ける牛產品と其の販路○我國海外貿易品としての名古屋市製品の地位○本邦對外貿易と名古屋港の地位△名  
 古屋市役所寄贈○同仁△同仁會寄贈○第二回近畿二府五縣聯合畜產共進會審查復命書△農林省畜產局寄贈○北京  
 週報△極東通信社寄贈○運動と醫學上の注意△內務省衛生局寄贈○露西亞事情△露西亞通信社寄贈○東京帝大セ

ツルメント年報△東京帝大セツルメント寄贈○大正記念長岡市立互尊文庫一覽△長岡市立互尊文庫寄贈○運轉業  
 報△朝鮮總督府鐵道局寄贈○第四年度業務報告△產業組合中央金庫寄贈○埼玉縣立圖書館概要△埼玉縣立圖書館  
 寄贈○Compressed Air Magazine △Compressed Air Magazine, Co, 寄贈

受贈新聞ノ部

○長崎新聞每號△同社寄贈○長崎日々新聞每號△同社寄贈○長崎民友每號△同社寄贈○東洋日の出新聞每號△同  
 社寄贈○長崎時事新聞每號△同社寄贈○北海タイムス每號△同社寄贈○滿洲日々新聞每號△同社寄贈○咸南新報  
 每號△同社寄贈○臺灣日々新聞每號△同社寄贈○土陽新聞每號△同社寄贈○大分新聞每號△同社寄贈○上海日報  
 每號△同社寄贈○福岡日々新聞每號△同社寄贈○對馬日々新聞每號△同社寄贈○島原新聞每號△同社寄贈○京城  
 日報每號△同社寄贈○鹿兒島新聞每號△同社寄贈○鹿兒島朝日新聞每號△同社寄贈○長崎プレス每號△同社寄贈  
 ○文藝時報每號△同社寄贈○國民振興新聞每號△同社寄贈○勞力新聞每號△三菱長崎造船所寄贈○大阪時事新報  
 每號△同社寄贈○滿洲日報每號△同社寄贈

終